

# にちぎん

2024 NO.80

冬



インタビュー 扉を開く

**綾戸智恵** ジャズシンガー

私の人生観を支える「母の言葉」

地域の底力

**北海道上川郡当麻町**

行政と住民、心を一つにした連携が  
独自の挑戦を生む北海道当麻町

対談 守・破・創

**宮里 藍** プロゴルファー

**中村豊明** 日本銀行政策委員会 審議委員

米ツアーでの挫折から学んだ「対話」こそが最強のスキル

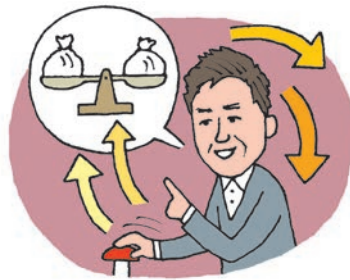
エッセイ “おかね”を語る

**宇治原史規** お笑いタレント 受験もお金も教科書が大事

高校三年生の春、相方の菅さんに「一緒に芸人になろう」と誘われ、「売り」になるかもと文系最難関の京大法学部を受験した。僕は教科書を読みこんで、一日一時間勉強し現役合格したが、菅さんが浪人したため、二〇歳でロザンを結成した。

五〇回以上もオーディションを落ちて、ようやくデビューしたのは大学三年生のとき。当時、家庭教師のバイトは時給三五〇〇円、劇場の出演料はたったの五〇〇円だった。それでも親に黙って就職活動もせず、芸人の夢を追い続けた。二人でしゃべることが楽しく、これを仕事にしたら、人生が楽しくなると思ったからだ。今思えば、若気の至りだが、何の根拠もない自信があった。ただ芸人をやりたかった。普通に就職していたら、仕事に声を出して腹を抱えて爆笑できるような幸せは味わえなかっただろう。

学生時代から菅さんとはお金の貸し借りが一切なく、支払いは割り勘だ。芸人になってからの収入も折半にしている。二五歳の頃、「オールスター感謝祭」に二人で出演した際、菅さんが優勝して、賞金三〇〇万円の半額を僕にくれた。いいヤツだと思った。その後、三〇歳で「平成教育予備校」に出演したことをきっかけに、僕はクイズ番組



絵・江口修平

## 受験もお金も教科書が大事

宇治原史規

に一人で出るようになった。賞金を稼ぐことも増えたが、全て折半している。今思えば最初の三〇〇万円の半額は、将来を見越した僕への投資だったのかもしれないが、菅さんとお金のことでもめたことはまったくない。互いのプライベートにも踏み込まず「親しき中にも礼儀あり」を守っているからこそ、いつまでも仲良くいられるのだろう。

二〇代は稼いだけお金を使っていたが、三〇代で家庭を持って意識が変わった。住宅ローンを借り、保険にも入った。数年前からは父親に勧められて証券口座を開設し、お金の教科書を勉強して、株式や投資信託への投資を始めた。投資対象は、安全性を重視し、将来性のあるものを少し組み込んで、長期保有している。長い目で見ていくので、大きく相場が下がった時でも動じず、逆に上がっても喜ばないようにしている。

お金の話をすると「汚い」と言われることもあるが、それは感情が入ってしまうからだ。落ち着いてお金の話をすれば、人生が豊かになる。SNS等で情報が溢（あふ）れているが、僕は常にフィルターをかけている。一步右に踏み出したなら二歩目は左に。反対意見を聞くことも重要だ。きちんとしたお金の教科書を勉強すれば、人生をより良くできると信じている。

うじはら・ふみのり●お笑いタレント。1976年4月20日、大阪府四條畷市生まれ。京都大学法学部卒業。1996年、高校時代の友人である菅広文とお笑いコンビ「ロザン」を結成。漫才師として舞台に立つ一方で、クイズ番組をきっかけに才能を開花。現在では舞台やテレビ出演のほかYouTube「ロザンの楽屋」や講演会「ロザン塾」など幅広く活躍。





- 2 エッセイ／“おかね”を語る  
受験もお金も教科書が大事 お笑いタレント 宇治原史規



- 4 インタビュー／扉を開く  
綾戸智恵 ジャズシンガー  
私の人生観を支える「母の言葉」
- 9 地域の底力——北海道上川郡当麻町  
行政と住民、心を一つにした連携が  
独自の挑戦を生む北海道当麻町



- 16 日本銀行のレポートから (1)  
「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2024年10月—
- 18 対談／守・破・創  
宮里 藍 プロゴルファー  
中村豊明 日本銀行政策委員会 審議委員  
米ツアーでの挫折から学んだ「対話」こそが最強のスキル

- 23 FOCUS → BOJ 48 日本銀行業務局 総務課国庫業務企画グループの仕事  
国庫金のキャッシュレス納付と「推進宣言」

- 27 日本銀行のレポートから (2)  
「金融システムレポート」—2024年10月—



- 33 トピックス  
「決済システムレポート」を公表 (9月) ほか
- 35 AIR MAIL from Frankfurt  
平和への願いが込められた欧州統合

## 表紙のことは

表紙の店舗は、日本銀行山形事務所が開設当初に同居した両羽銀行（現・山形銀行）本店の建物です。

同事務所は、昭和二十年（一九四五）八月に駐在員事務所として開設され、その後、昭和二十一年（一九四六）の名称変更により事務所となりました。

この建物は、建築家・中条精一郎（ちゅうせいいちろう）の設計によるものです。中条は、現在の山形県米沢市出身で、東京帝国大学卒業後、文部省に入り、英国ケンブリッジ大学に留学して西洋建築を学びました。古代ギリシャの神殿のように重厚で美しい建物は、大正十二年（一九二三）竣工の鉄筋コンクリート造りで、山形市中心市街地のシンボルとして長年にわたり愛されました。

山形事務所は、昭和二十二年（一九四七）に旧・山形貯蓄銀行本店建物へ移転し、昭和四十六年（一九七二）には山形銀行本店建物内に移転しました。その後、令和三年（二〇二二）に、山形銀行本店の建て替えに伴い、同行旅籠町ビル内に移転しました。

令和七年（二〇二五）八月に開設八〇周年を迎える山形事務所は、これからも地域経済の健全な発展を縁の下から支えていきます。

裏表紙の写真は、山形銀行所蔵のものです。



表紙・画 北村公司



扉 を 開く INTERVIEW

# 綾戸智恵

AYADO Chie

ジャズシンガー

四〇歳で遅咲きのデビューを果たして以来、ジャズシンガーとしては異例のCDセールスを記録している綾戸智恵さん。ピアノ弾き語りのコンサートでは笑いあり涙ありのトークも交えて聴衆を魅了する。「私の生きざまが音楽になっている」という綾戸さんは、どのような道をたどって今に至るのか。その生きざまを支える信念は、亡き母の教育の賜物だったと語る。



# 私の人生観を支える「母の言葉」

## 個性を伸ばしてくれた母、 音楽を授けてくれたシスター

——綾戸さんは小さい頃、どんな子どもでしたか。

綾戸 母が私を縛らなかつたら、いろんなことに興味があつて、とにかくミスが怖がらない子でした。「間違つたらどうしよう」というのは子どもの頃から一度もないですね。「やつてみな分からへんやん」が学校でも有名な私のフレーズでした。みんなにウケることも大好き。踊りを披露して「智恵ちゃん」と拍手をもらつたり、お弁当の卵焼きをあげて「おいしいわ、あんたの」とほめられたりする和有頂天になりやすい。「煙と智恵ちゃん」は手をたたいたならな

んぼでも上る」と言われました。

母のスタンスは一貫していて、先生から「これはみんなと一緒にして」と言われたときに、母が「協調性が大事なのは分かりますけど、この子の個性をそぐことだけはやめてください」と、お願いしてくれたことを覚えています。「今はこれがこの子の欠点かもしれないけど、大人になつたときにはチャームポイントになるかもしれない。人生が答えをつけることやから自由にやらせてやってください」って。

——昔前は個性や違いよりも協調性を重んじる傾向がありました

したが、その点、お母さまは進歩的だったと感じます。

綾戸 母は大正十四年生まれのわりにはしゃれていましたね。長身で美しかったし、普通に世界を見ていた人でした。戦時中に「日本は負ける」と言つたりして、警察に囲まれたこともあつたそうです。母も親からの詰め込みがなかつたんですよ。母方の祖父が自由な人で。

——音楽との出会いはいつ頃ですか。

綾戸 私はおむつが取れてすぐに三年保育の幼稚園に行つたんです。フランス系カナダ人のシスターがたくさんいる、カトリック教育の幼稚園。ベレー帽の制服に「パリジャンみたいでええな」と母が憧れて。完璧なミーハーですね。そこで英語の

授業のほか、芸術の授業も取れたので、私はクラシックピアノを選んだんです。幼いながらに外国人に気後れしなかつたし、幼稚園の共通語だった英語は音楽みたいに頭に入ってきたと思います。歌も、ゴスペルからカンツォーネに至るまで歌っていました。今の私の「アメイジング・グレイス」というと、当時、幼稚園のシスターが歌っていた歌い方に影響されています。あのシスターの独特のフレージングとか、私の中に残っているんですよ。譜面はあまり得意ではなく耳コピというか真似をしながら歌っていました。それが得意でしたね。

——そして、その音楽でウケると。

綾戸 小学校でも、みんなの前

でピアノを弾いたりして。ピアノを始めた頃から、一度聴いた音楽は瞬時に再現できました。「てなもんや三度笠」とか、パツと弾いてみせると、みんながワッ！となって。あれは嬉しかったですね。

中学生の頃には大阪万博があつて、天王寺とか阿倍野のピアノバーに外国人がたくさん

## 花も嵐も踏み越えて 受け入れたデビューへの道

——高校三年の頃、初めてロサンゼルスを訪れ、その後も渡米を繰り返されます。このときも音楽修業が目的ではなかったのですか。

綾戸 いいえ、アメリカで暮らしてみただけです。本当にそれだけ。小さい頃、父に何度も洋画座に連れて行かれた影響でアメリカが好きになつて、マリリン・モンローやらロック・ハドソンみたいな人がたくさんおると思っていたんですよ。行った

来たんです。そこで演奏すると「明日も来て」とお座敷がかかる(笑)。これで将来こはんが食べれるようになるかもしれないと、そのぐらいは思いましたけど、まさか今のようになるとは思っていませんでした。実は私、四〇歳でデビューするまで、プロになるために励んできたことは何もなかったんです。

ら、ケンタッキーフライドチキンのロゴマークみたいなおっちゃんばかり(笑)。アメリカも、日本と何ら変わらないう男女が暮らしているんだなと分かりました。

——夜はジャズクラブに通い、飛び入りでジャム・セッションに参加されたそうですね。

綾戸 修業とか勉強という意識はなく、ただ楽しいからやらせてくれという感じですね。アメリカの音楽は、いろいろな国の人が各々の音楽を持って集まっ

てきたものですから、「こうでなければ」というのがないんです。自由や気ままさがありますし、百点が満点とは限りません。だから良い意味の博打感があつて楽しい。一発当てて儲けてやろうというのは違いますよ。

博打の楽しさつて、当たるか当たらないか。お客さんにウケるかウケないかです。スベったときは自分で自分を笑います。音楽もしゃべりも、思いついたことをどんどんステージでやれるんです。

——一九九一年、三三歳の時に生後六カ月の息子さんと帰国し、お母さまを含めた三人の生活を神戸で始められました。

綾戸 独り者のときは食べない日があつても平気でしたけど、幼い息子と年老いた母がおなかついたと言ったらがんばらなうかん。クラブで歌つたりするだけじゃなくて、自分で貼り紙をして英語やピアノの先生をしたり、近所の外国人に日本料理を教えたり、できることは何でもやりました。もちろん家の中で

は主婦業、母親業も。その頃はまず食べることで、人生のプランというのはなかったですね。

——一九九五年の阪神・淡路大震災で被災されましたが、それで人生観に変化がありましたか。

綾戸 「生まれたら、もれなく死ぬのがついてくる」と、母から私は言われ続けてきました。私が三歳そこらの物心ついた頃からです。オギャーと生まれた人には大きな仕事がもう一つ残っている、それは自分の葬式やと。そして、生きてる間にいろんなことが降りかかってきても、とばかりと思わず、それが人生やと思ひなさいと教えられました。台風でも地震でもぶち当たったときは「あ、来ましたか」と受け止める。逆に、来るもの来るものを自分のチャンスだと思つて受け入れなさいと。花も嵐も踏み越えていけと言われましたね。

——そうした人生観もあつたから、四〇歳でデビューのきっかけになったスカウトも……。





あやど・ちえ ● 1957 年大阪府生まれ。3 歳からクラシックピアノを始め、高校在学中の 17 歳で単身ロサンゼルスへ。高校卒業後もアルバイトでお金を貯めては渡米し、ジャズクラブに通った。ときには飛び入りで演奏、歌を披露し、ジャム・セッションに参加。84 年、27 歳の時にニューヨークに渡り、以後長期滞在。98 年、40 歳でジャズシンガーとしてプロデビュー。アルバム『For All We Know』『Your Songs』を発表。99 年、初のソロアルバム『LIFE』が大ヒット。2003 年には NHK 紅白歌合戦に出場し「テネシー・ワルツ」を歌い話題に。その後、活動しながらも介護を続け、21 年に 94 歳の母を自宅で看取った。ライブ活動では、ジャズを中心にゴスペル、ソウル、ロック、ポップス、J-POP など幅広いレパートリーを巧みにとり入れた個性的なステージを展開している。2001 年に第 51 回芸術選奨文部科学大臣新人賞（大衆芸能部門）受賞。コロナ禍でも精力的にアルバム制作をすすめ、22 年 12 月にスタジオレコーディング作品としては 5 年ぶりとなるアルバム『Hana Uta（はなうた）』をリリース。近年は、YouTube での自宅弾き語り動画「ジャズバーまいど」、Podcast「綾戸智恵のばば放談」など SNS での活動が大好評。着実な歩みを続けている。

**綾戸** 全部受け入れたんです。最初の二年ぐらいは「これだえんやろか？」と思いながらの音楽活動だったんですけど、ソロアルバムを出した頃から「お客さん、こんなに入ってるやん！」と、びっくりするような状況になってきました。ツアーデイズだったのに追加公演、渋谷にあるオーチャードホールでも追加公演……とか。そんな状況になったときに母から言われた

んです。「誰があんたをのし上げたんや。お客さんや。それが分かってるなら、どないでも勝手にいい」と。お客さんにこれだけ大事にしてもらえるなら、私は歌わなあかんと思うようになりまして。自分は音楽の才能があるわけではないけれど、ウケたんだから、これをやっていかなもつたないないし、どぶに捨てるようなことをしたら生まれたことを否定するのと一緒にだ

思ったんです。

母には「あんたがお母さん業をやめたら歌えなくなるよ、人間として失格やから」とも言われました。息子の弁当を作ったり、体操服にゼッケンを付けたたり、その合間にピアノを弾いて練習する。そんな毎日でした。

——綾戸さんのコンサートで印象的なのは、「歌います」とは言わずに「聴いてください」と語りかけられることです。

**綾戸** お客さんが私の歌を聴いて喜んでくれるはって、それで私はごはんが食べられるんですか

ら。ともかく息子と母を食べさせたくて、根っこはずっとそこにありました。自分がミュージシャンでありたいといった気持ちにはなかったんですね。それに、自分が歌いたいか、私利私欲だけでは自分を何もコントロールできません。子どもを大きくせないかんとか、歌を聴いてくれる人に喜んでもらわないかとか、そう思う気持ちから、人としての動きがきれいになる。自分をコントロールできる。それさえできれば、人間生きていくんですかね。

## 「今日までご苦労さん」 母が遺した最期の言葉

——デビューから一〇周年を迎えた二〇〇八年、音楽活動を一時休止してお母さまの介護に力を注がれました。翌年に復帰後も介護を続けて、二〇二一年に九四歳で看取られました。

**綾戸** 母なのでほっとけなかつた。ただそれだけのことです。介護用品のテレビCMに出演し

たせいか、私は介護の名人みたいに言われますけど、そんなじゃないです。普通にくだばったり、日々波がありました。みんなの力もたくさん借りました。困ったときは、周りの人にすぐに頼みます。夏の暑い盛りに母の車椅子を押して坂道を登っている途中、忘れ物に気付いたこ



キリスト品川教会でのライブの様子

(写真提供：有限会社まいど)

とがありました。この車椅子を押してまた坂を上り下りするのは嫌やなと思案していたら、近くに郵便局があったので、「すみません、ちょっと見てもらえませんか」と駆け込みました。局員さんが「は？」という

間に母を置き去りにして忘れ物を取ってきて、すみませんでした。切手だけは買って帰りましたよ。

そんなふうに、頼めるんだったら何でも「ごめんなさい」でやっていました。「ごめんなさい」で済むことだったら、人間お互いさまやから、自分の仕事でそれを返そうと思ったんです。だから、私は介護を特別にできたわけでも何でもない。がんばりましたけど、よその娘さんと何ら変わりません。

—— 周りを巻き込んだり信頼関係をつくったり、とてもお手だと感じます。

綾戸 無意識のうちに母にそういうふうに着てられたんでしょね。それは感じます。

自分の手足は二つずつありますでしよう。それ以上のことを誰かとやっていくことが大事なんです。手と足と、自分が今持っている肉体のすべてを使って、それで足らなときはどうするか。口ですやん。「お願いね」と言う。ここが一番大事なことを

で、共存するということです。共存ができたから、私は母を介護しながらでも仕事ができしました。私が歌いに行っている間、ある介護士さんが実の娘みたいにも母のお世話をしてくれた。私がコンサートに行かなあかんと、介護士さんというもう一つの手が、母の背中をさすってくれたわけです。彼女には本当にお世話になりました。だから私は今、その介護士さんに対してできる限りのことをしていますね。

—— 綾戸さんにとってお母さまはどういう存在でしたか。

綾戸 ずっと私の後ろ盾ですね。一七歳で単身渡米したことについて、「綾戸さん、そんな年齢で自立できていて凄<sup>すご</sup>い」と言われましたけど、母がいなかったら行つてません。何かあっても母がいてくれる、そういう気持ちがあったから一人で行けたんですよ。

小学三年生の頃、かけっこで初めて母より速く走ったことがあります。早く、負けた

わ」と言いながらも、母の横顔に、どこか私に負けた喜びが見えたんです。これは親だけですね。その時、私は、自分が大きくなつてることを実感するとも、いつか母は死ぬんだなと感じていました。

そう思いながら生きてきたので、母が最後に「今日までご苦労さん……」と言い、私も「お母ちゃん、ご苦労さん」と返したのを覚えています。それ以来、母のことで泣いた日はありません。葬式は大笑いでしたね。私のワンマンショーやと言われました。

オギャーと生まれた人のもう一つの大きな仕事は自分の葬式やと母は言いました。そやけど死というのは本人には分からないでしょう。私が母の葬式をしたくなるような子に母はしたんです。その「成績」は母のもんです。そう思います。そんな実感があるんです。

—— 本日は、ありがとうございます。

(聞き手／情報サービス局長・小牧義弘)



地域の底力——北海道上川郡当麻町

# 行政と住民、 心を一つにした連携が 独自の挑戦を生む 北海道当麻町

主要産業の林業や農業を基盤とし、  
前例のない取り組みを柔軟に推し進めていく。  
北海道当麻町は前向きな姿勢を維持しながら、  
今、多くの人や企業を惹きつけている。

北海道中央部上川盆地に広がる田畑。当麻町役場が保有する農地では毎年、田んぼの学校が開かれ、小中学生が米作りを学ぶ。写真中央のキャンピングサウナバスは、町長が発案し、民間企業や団体のアイデアを結集して誕生した。ふるさと納税の人気の返礼品（バスのレンタル）にもなっているという。

取材：文山内史子  
写真：野瀬勝二



自らを町のトップセールスマンにたとえる、当麻町長の村椿哲朗氏。「役場の人材育成に力を入れており、繰り返し理念を語り続け、自らやって見せるうちに、最近ではこれをやってみたいと企画を持ち込む若い職員が増えている」と嬉しそうに語る。



## 「何もない」から「全部ある」へ 垣根を超えて、 今あるものを活かす

北海道上川郡当麻町は道内のほぼ中央、大雪山連峰が見守る上川盆地に位置し、約七割を山林が占める。主要産業は林業と農業で、人口は約六〇〇〇人。一帯の歴史は一八九三年に広島県や山口県から四〇〇戸の屯田兵が入植して始まり、永山村、当麻村の時代を経て一九五八年に当麻町誕生へと至る。

『「うちの町には何もない」が、かつての町民の口癖でした。でも、町出身で役場に勤めていた私は、『当麻町には何もないどころか磨けば光る魅力的な資源がたくさんある』、そのように考えていました」

そう振り返るのは、二〇二〇年から町長を務める村椿哲朗氏だ。実際に当麻町は、「ゆめぴりか」「きたくりん」といった米が長年トップクラスの評価を受け、特産品「でんすけすいか」は最高級のブランドスイカとして知られる。生産量道内一を誇るキュウリ、キクなど野菜や花きの栽培も盛んだ。

「私は、メジャーな観光地がないとか、ないものねだりが嫌いで、今あるものの中で何ができるかを考えるタイプなんです。地元だからこそ気付けない地元の良さを、うまく見せたり伝えたりすることは本当に難しい。役場のリソースだけでは限界があるので、町民や町外からの力をいかに巻き込むかが大切だと考えています」

村椿氏は役場職員の時、広報担当として、インターネット動画を作っていたという。人気バラエティのパロディーで、役場の職員がひたすら頭を下げて町民に助けを求めるといった内容だったが、ネットだけでなく、ケーブルテレビで町の全世帯に流れることも

あって、世代を問わず、反響が大きかったそうだ。当時、子どもたちの冬の遊び場が欲しいという子育て世代からの要望に対し予算がなく困っていた際、この動画を通じて助けを求めた。

「予算を確保できない町の事情を洗いざらい話したことも良かったのではないかと思います。動画に共感した新しい感覚を持つ方々がボランティアとして大勢集まり、巨大大きなまくら、アイスドームが本場に完成してしまいました。この時集まった方々は、今でも当麻町で活躍していただいております、大変貴重な人材発掘の場になりました」

町長就任後も村椿氏は情報発信を重視し、自身と広報課がそれぞれSNSを活用して、休むことなく町に関する多彩な情報を伝え続けている。



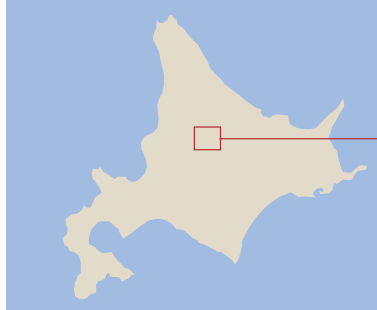
2018年に新築された町役場・議場は町産材を100%使用。木の床面が広がり、数多くの柱が天井を支える。訪れた者は当麻町が林業のまちであることを自然と意識する。

けている。

「かつて広報課は役場の中でも一番人気のない部署でした。予算もなく、全部自前でやっていました。だから、私は、当麻町職員全員が町の良さを知らしめる営業担当であり、その最前線が広報課なんだ」といつも話しています。そのおかげか、今は広報を楽しんでくれる職員が増えています。先進的な民間企業のスタッフと交流する研修プログラムも始まり、職員の発想が変わってきていますし、あらたなアイデアの提案も増えています」

行政の見える化も徹底している。時として厳しい意見も届く「町長への手紙」は広報紙やネットで公開されている。

まちづくりの推進目標としては、「食育 木育 花育からつながる



心育」を掲げる。当時の町長に直  
言したのが、役場職員時代の村椿  
氏だという。二〇一五年に開校し  
た「田んぼの学校」では、小学四  
年生から中学二年生までが米を育  
て、幼稚園から中学校までの給食  
の米飯をまかなう。他の米と混ぜ  
られないように専用のサイロで保管  
する徹底ぶりだ。町ではこのため  
に一・二ヘクタールの水田を所有  
する。自治体が大規模な水田を持  
つのは全国でも初めてで、調整は  
難しかったが、一丸になって乗り  
切ったという。また、町の小学六



約7,700株の花々が四季折々、景色を彩るく  
るみなの庭は、家族連れで散策を楽しめる場に。



くるみなの木遊館では、木製の遊具で子ども  
たちが自由に遊べる。各種イベントや木工体  
験教室も開催。(写真提供：当麻町役場)

## 長期ビジョンで目指す 循環型林業が 若い世代の心を捉える

町の中心である当麻駅近くに、  
当麻町森林組合の製材工場があ  
る。道内でも森林整備だけの組合  
がほとんどで、上川管内で製材工

当麻町森林組合の製材工場を案内するのは、組合長の中  
瀬亘氏。当麻町内はもちろん、旭川市内からも子どもた  
ちが工場見学に訪れる。「そうした中から林業を志す子ど  
もたちが出てくる」と、活気のある作業風景のかたわら、  
話す言葉に自然と力がこもる。



年生は、中学校での三年間、自ら  
が使う学習机を町産材で製作する。  
そして、花育拠点である「くるみ  
なの庭」には一〇〇種以上の花が  
咲き、週末には家族連れが集まる。

子どもたちは学校で、あるいは家  
族とともに町の自然や産業にふれ  
て育つ。そのほか多彩な子育て支  
援とも相まってファミリー層の関  
心は高まり、ここ数年は転入によ  
る人口の社会増が続いている。

役場時代から長年林業行政に携  
わった中瀬亘氏が、組合長に就任  
した二〇〇九年当時を振り返る。  
「もともと役場で働いていたの  
で、当時の町長とは気脈を通じて  
いました。当麻町には林業と農業

しかない、これをまちづくりの  
土台にするしかない」と。林業は、  
五〇年のサイクルで植林、保育、  
間伐、主伐を繰り返す。安定的  
な循環型林業を実現するために、  
五〇年先を見据えた長期ビジョン  
を策定しました。全国でも珍し  
かったと思います。まず現在の  
資源量を確認したうえで、この先  
五〇年の事業量を計算しました。  
そうするとこの先必要な人員や設  
備が分かります。これをみて、工  
場の若い担当者が言い始めたんで  
す。工場を充実させるために大型  
の機械が必要だと。それで町にも  
協力してもらって二〇一四年に大  
部分の製材機械を更新しました」  
設備投資により増えた生産能力



右／2014年導入のフランス製の大型製材機械。増える町産材の需要にしっかりと応える。2019年に森林認証（SGEC-COC認証）を取得。左／製材作業で生じた端材や丸太の樹皮は、すべて再活用される。



は「地材地消」でカバーする。町役場庁舎をはじめ公共の建物は町産材を使用している。来年度建設予定の認定子ども園も町産材が使用される予定だ。個人住宅の新築時には町産材使用にかかるコストを町が助成。現在まで約二〇〇棟が、この制度を利用してきた。

「長期ビジョンに沿った人員の確保も必要です。北海道では積雪期の雇用が課題ですが、人材の定着のため、作業員の通年雇用、一年を通じた仕事量の確保を目指しました。そのうえで、事務所と現場で格差のあった待遇も、全員を正規職員にすることで、同じ体系にそろえることにしました。就業環境が改善したことで、若い世代の注目を集め、近隣の農業高校や道立北の森づくり専門学院の卒業生が、就職先として森林組合を選んでくれています。その中には町の本育で組合の工場見学に来ていた子もいます。一五年前に五九歳だった職員の平均年齢は、今、四一歳に若返りました」

森林組合の入っている建物の玄関には「農業合同事務所」の看板が掛かっている。森林組合のほ

か、農協や農業委員会、土地改良区の事務所が集まる。

「全国でも珍しかったようですが、前町長の声掛けで合同事務所ができました。各所属の代表が週一で集まり、意見交換、調整を行います。町民にとっても窓口がワンストップで済み利便性が高い。役場も含めてオープンにつながっているのも、他の町よりもスピード感があることが最大の武器です」

### 先駆性と次世代教育で未来を開拓する農業

他の地域から見れば「何でもある」ような当麻町でも、就農者は年々減少している。そうした中で、農業を営むには本当に良い時代に生まれたと語るのは、米やでんすけすいかを中心に生産する舟山農産の舟山賢治氏だ。

「父の時代に

あった煩わしい作業が本当になくなりました。最新センサーの導入や栽培管理のIT化が進み、事務所に居ながらにして、水田やハウスの状況を手に取るように把握できます。GPS機能を搭載した田植機は自動運転です。高品質が売りのでんすけすいかも品質チェックは機械化されています」

当麻町では、米を収穫した農家はそのまま農協のカントリーエレベーターに持ち込む。最新鋭の大型サイロで、乾燥後、もみのまま低温貯蔵し、出荷まで保管。出荷直前に精米するため、おいしさも



舟山農産の舟山賢治氏は、町所有の農地で催す田んぼの学校の校長を務める。「子どもたちにはかっこいい農業を伝えるようにしています。私自身、本当にそう思っていますから。将来の夢を農家だと話してくれる子どもが増えているのが嬉しい」



ほとんどの子どもたちにとって、農作業は初めての体験。田植えや稲刈りでは、町民のボランティアも参加してサポートする。  
（写真提供：株 舟山農産）

増すという。米だけでなく野菜も農協にそのまま持ち込み、機械が選果して出荷する。

「農家は空いた時間で他の作物を作れるので、大変ありがたいんです。あらたな試みとして興味を持たれ、視察にいらっしゃる自治体も多いと聞きます。加えて、当麻町の農協は、設備のことだけではなく、昔から若い世代に新しいことにチャレンジさせてくれる雰囲気があります。行政ともいつも連携できているので、町もしっかりとサポートしてくれます」

舟山氏はインターネットなどを介して米や野菜の直販も行っており、とりわけ米の洗練されたパッケージデザインが目を引く。



藍、だいたい、あかねといった和色を採用したパッケージや、2合分の米を各種組み合わせるアソートボックスなど、味だけではなく、デザイン性を意識している。



「デザインは旭川の若いデザイナーにお願いしました。自分なりに商品の付加価値を高めていくことに、たいへん面白味を感じています。良い時代に生きて農業に従事できることに幸せを感じます」

農業に関心を持つ子どもが増えるのが一番のやりがいという舟山氏は、田んぼの学校の校長を開校当初から務める。小学三年生にはスイカ、五年生には米に関する食育授業を行っている。栽培に関する基礎知識はもちろん、五年生になると米の流通、最新機器の活用、さらには食料自給率の問題など、広く深く農業に関して学ぶカリキュラムだ。

「現在、一学年五〇名のうち、家が農業を営む児童は一割程度で、農作業を体験したことのない子どもが多いんです。田んぼの学校が

始まって一〇年になりますが、農業への興味が深まり、将来の夢は農家という声が確実に増えているのが嬉しいですね。一期生であるうちの長男も、間もなく農業を始めます」

そう話しながら、舟山氏は顔をほころばせた。

前例はないけれど  
面白そうだから  
やってみよう

当麻町はビジネスにおいても、人を惹きつけている。オフィス甲斐の甲斐綾乃氏は、二〇一三年に旭川市でアパレル関連のセレクトショップを開業。その後、



二〇一七年に当麻町に移転した背景についてこう振り返る。

「北海道でブランディングしようと考えたんです。例えば北海道のカニ、北海道のジャガイモというのは連想しやすいですね。アパレルでいえば北海道の冬場の寒さだと思いついたんです。防寒ウェアなら北海道と連想してもらえような、地域性の際立ったエリアを探しました。地元の人間にとっては札幌では暖かすぎる、北海道の真ん中の上川しかないと考えました」



ショップ内は歳月を経たはりが、趣を生んでいる。「木造建築は年数を経て味が出てくることで価値が増します。防寒ウェアも買ってよかったと長く愛用していただけることを目指しています」と甲斐綾乃氏は話す。



ショップの外観。北海道大学の築90年の製材工場を一度解体し、当麻町で組み直した。甲斐氏のこだわりと当麻町の支援で実現した。

大雪山系が彩る豊かな自然環境と冬場はマイナス二〇度以下になる気候をふまえて、複数の場所が候補に挙がる中、当麻町を訪れた甲斐氏は、大きく心を動かされる。

「役場の対応のスピード感ととにかく際立っていました。窓口でコンセプトを説明したところ、役場の職員だった現町長が当時の町長にすぐにつないでくれました。その場で町ができることを聞き、具体的な提案がありました。他の自治体では前例がないと言われ続けていたところ、当麻町では『前例はないけれど、面白そうだからやってみよう』と。それを聞いて、この町しかない、と思いました」

二〇二一年には二軒目、滋賀県の有名アウトドアメーカーのフランチャイズショップを町内にオー



ブン。役場からは町営キャンプ場に隣接する町有地活用の提案があった。現在ではそのキャンプ場をはじめ周辺施設とも連携したブランディングや告知、イベントなどが行われている。

町の人がダウンジャケットやTシャツといった自社製品を、積極的に着ている姿を頻繁に目にするのも嬉しかったと甲斐氏は話す。

「地元のファッションブランドだと大切に思ってくださる方が多く、都市部ではあり得ない現象だと思います」

現在は主な顧客である男性に限らず、家族が楽しめる場所をとの思いから、カフェの併設を計画している。インターネット販売やSNSでの発信にも力を入れており、海外からの反応にも手ごたえがある。

「マイナス三〇度でもうちのダウンジャケットがあれば寒くない。そういうストーリーを当麻町からならリアルに発信できるのは大きな魅力です。当麻町発のブランドイメージもより高まればと思っています」

## 障がい者が地域とともに暮らす

当麻町の柔軟性を語るうえで、一九九六年に開設した通所型の障がい者施設「当麻かたるべの森」にも着目したい。施設は当麻町内に点在するが、本体にあたるギャラリーかたるべプラスは町立中学校の隣に建つ。長年、障がい者の支援と福祉教育に携わってきた副理事長の横井寿之氏が語る。

「根強い偏見から、一般的に障がい者施設の建設は周囲の反対を受けることが多く、学校の近隣に設置できるのは極めてまれなことです。僕らが当麻町に障がい者施設をと相談した際、役場の福祉課が前向きに協力してくれたおかげ

で、もともと教育委員会の土地だったこの場所を利用できるようになりました」

かたるべの森は、その名称が表す通り、約六万六〇〇〇坪の森を有し、林業で障がい者が社会貢献できる道を開拓してきた。実践の場として私有林を購入した開所時、笹に覆われていた森は、施設利用者や職員が少しずつ尽力してきた結果、木漏れ日がさす美しい景色に変わった。



上／就労施設であるパン工房「森のぱんやさん」では通所で集まる利用者が作業を担う。

下／森の中の施設は多彩。一角には、農作業ができる畑も設けられている。

当麻かたるべの森の副理事長を務める横井寿之氏。「かたるべ」は北海道弁で、「集まって語り合うべや」という意味。「介護だけではなく障がい者とともに林業や木工、陶芸などに携わることで、職員には楽しみが増えますし、福祉の世界が広がると考えています」

「障がいのある人も地域の中で暮らすというノーマライゼーションの考え方が世界では当たり前です。日本では施設内で居住する入所型が多かったのですが、かたるべの森は周辺の自宅等から通う通所型であることが大きな特徴です。過去に農業を活用した障がい者施設はありましたが、林業はおそらくここが初めて。利用者は職員とともに間伐や薪割り、下草の刈り取りなどを行い、森を守るという社会貢献に結びついています」

森の中には木工や陶芸、織物の工房やコンサートホールが設けられ、夏場は利用者が散策を楽しむこともできる。かたるべの森で生まれた工芸品を販売するギャラリーにはパン工房があり、利用者が作業に従事する。

「森を活用して地域との交流を





当麻鍾乳洞は約1億5000万年前のジュラ紀から形づくられてきた。管状に伸びる「マカロニ鍾乳石」は学問的にも貴重という。北海道指定天然記念物。

かたるべの森美術館は障がい者の芸術活動を支援する施設。展示されている数多くの作品は色彩、造形、発想のいずれの面でも、力強く心に響く。



という計画も進んでいましたが、近年の熊の出没が障壁になっており、芸術活動を通して人と人との交流の場を広げていくという夢の実現には、まだまだ課題があります。若い世代を含めて職員の確保も容易ではありません。それでも、全国の施設や研究者の間では、かたるべの森の可能性に注目する

方々が増えてきました」

「かたるべの森美術館」は、廃校となった旧伊香牛小学校を再活用して二〇一〇年に誕生した。創作作業を希望する利用者が通う。熱心に作業に取り組む様子や、利用者が創作した既成概念にとらわれないダイナミックな作品が、印象深く胸に刻まれた。

地域の住民にとって自分たちが通った小学校がなくなるのは寂しい。美術館に生まれ変わった母校に足を運ぶ住民も少なくないという。

## 行政と住民の垣根を超えたつながり 将来世代にバトンを受け継ぐ

ひと昔前、当麻町の財政はかなり切迫しており、破綻もささやかれる状況だったという。前町長が民間感覚を持ち込み、大ナタをふるった。「この町にはなにもない」ところからの出発だった。

「予算がない分、何でもトライすれば良い、町内外の人材を巻き込むしかない。それを前町長は認めてくれたんです」

そう振り返る村椿氏は、イン

ターネット動画に取り組んだ頃の話から、最近、民間企業と連携して誕生した全国初のキャンピングサウナバスまで、多彩かつ多角的な取り組みを、本当に楽しげに語り続ける。いずれも「身の丈に合ったことしかやっていない」という。林業や農業、自然環境など、「今あるもの」をまっすぐに見つめて、突き詰めたうえでのチャレンジジからだ。

もう一つ気付かされたのは、行政や産業の垣根を超えたオープンな雰囲気やつながりだ。

「当麻町は町役場や各組合、農業者や商工事業者の皆さんの仲が良いいよねと町外の人によく言われるんです。しょっちゅう顔を突き合わせて、『営業』にも一緒に出掛けるからでしょうか。また、農家同士でも、新しい技術があれば出し惜しみせずにオープンにして共有する意識が定着しています。他の町では珍しいそうで、これが当麻町のスタイルだと思っています」  
そう語ったのは村椿氏だが、取材中、他でも同様の話を聞くことができた。オープンなつながり、



役場が推進してきた「声かけ・あいさつ運動」が実り、面積二〇四・九〇平方キロメートルの小さな町を巡ればすれ違う子どもたちの挨拶に和む。

当麻町スタイルも当麻町の大きな強みのようだ。

やがて「食育 木育 花育」に育まれた子どもたちが、そのバトンを受け継ぎ、当麻町の魅力を高め続けることだろう。





## 日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。また、展望レポートの内容を、より幅広い読者に伝えるための取り組みとして、そのポイントをイラストとともに簡潔に整理した資料（ハイライト）を公表しています。本稿では、2024年10月の展望レポート（基本的見解は10月31日、背景説明を含む全文は11月1日公表）のハイライトをご紹介します。

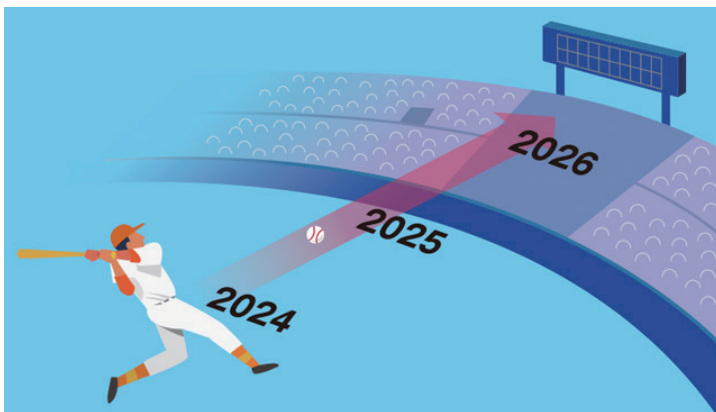
\*全文は、日本銀行ホームページに掲載されていますので、ご関心のある方は、ぜひそちらもご参照ください。

<https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm>



### 「経済・物価情勢の展望」（展望レポート・ハイライト）

—— 2024年10月 ——



**日本経済は成長を続ける**  
日本経済は、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、金融面からの後押しなどもあつて、潜在成長率を上回る成長を続けます。

**物価は来年度以降  
二％程度で推移する**  
消費者物価の前年比は、今年度に二％台半ばとなったあと、来年度・再来年度は概ね二％程度で推移します。この間、一時的な変動を取り除いた消費者物価の基調的な上昇率は、徐々に高まったあと、二％の「物価安定の目標」と概ね整合的な水準で推移します。





## 日本経済・物価を巡る 不確実性は高い

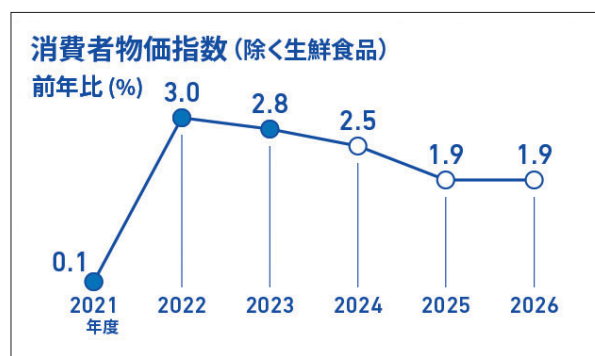
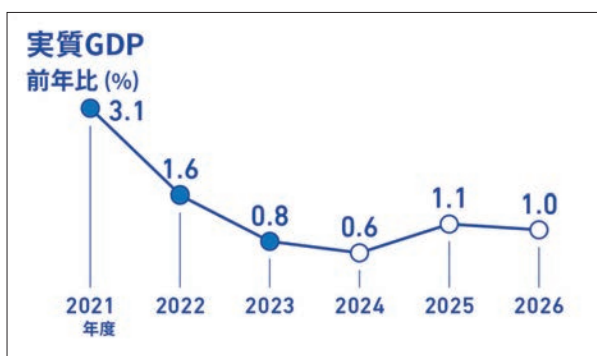
海外の経済・物価動向、資源価格の動向、企業の賃金・価格設定行動など、日本経済・物価を巡る不確実性は引き続き高い状況です。また、金融・為替市場の動向と日本経済・物価への影響にも十分注意を払う必要があります。

## 2%目標のもとで 金融政策を運営していく

金融政策運営については、先行きの経済・物価・金融情勢次第であるが、経済・物価の見通しが実現していくとすれば、それに応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくことになると考えています。



## 政策委員の経済・物価見通し



(注) ●は実績値、○は見通しです。





「藍ちゃん」として多くのファンに愛された宮里藍氏。米国女子ゴルフツアーに20歳で挑戦し、世界ランク1位にまで上り詰めたが、それは長いスランプを脱却した末の栄光だった。民間企業の財務担当として構造改革に取り組んだ経験を持つ中村豊明審議委員と、人間の価値や自身の成長の測り方、メンタルトレーニングの大切さ、後進育成、家族について語り合った。



日本銀行政策委員会 審議委員

# 中村豊明

NAKAMURA Toyooki

1952年生まれ、東京都出身。75年慶應義塾大学経済学部卒業後、(株)日立製作所入社。2001年同社システムソリューショングループ財務本部長、02年同社情報・通信グループ財務本部長、04年日立データシステムソリューションズホールディング社CFO、05年同社CEO兼CFO。06年(株)日立製作所財務一部長、07年同社代表執行役専務、12年同社副社長、CFOを経て、16年同社取締役。20年7月より日本銀行政策委員会審議委員。

## 「対話」こそが最強のスキル 米ツアーでの挫折から学んだ



プロゴルファー

# 宮里 藍

MIYAZATO Ai

1985年沖縄県生まれ。4歳の時に2人の兄（聖志、優作）に触発され、ゴルフを始める。2003年9月、宮城・東北高校3年在学時にアマチュアとして出場した「ミヤギテレビ杯ダンロップオープン」で優勝し、史上初の高校生プロゴルファーに。翌年からレギュラーツアーに本格参戦し、ルーキーイヤーの04年に5勝、賞金ランキング2位で1億円を突破。05年、第1回女子ワールドカップを北田瑠衣とのペアで制したほか、国内ツアーでは日本女子オープンを含む6勝。06年から主戦場を米国に移し、09年に「エビアン・マスターズ（現・アムンディ・エビアン選手権）」で米ツアー初勝利。10年には年間5勝を挙げ、世界ランキング1位に。17年、現役引退を表明。通算勝利数は24勝（日本15勝、米国9勝）。18年に結婚し、21年に第1子となる長女を出産した。現在は後進のゴルフ選手の育成にも携わる。

## 「イップス状態」に陥った米ツアーでの大きな挫折

**中村** 宮里さんは、高校在学中の二〇〇三年に日本ツアー優勝を果たし、史上初の高校生プロになりました。〇六年からは世界の強豪が集う米ツアーに予選会を経て参戦されましたね。

**宮里** 米ツアーでやりたいという思いが芽生えたのは、中学生の時に参戦した世界ジュニア選手権がきっかけです。父と二人で通訳もなしに渡ったサンディエゴでカルチャーショックを受けたんです。選手が青々とした芝の上で自由に練習していたり、よちよち歩きの子どもがお父さんとグリーンでパターをしていたりする。私は練習場のマットの上でしか打ったことがありませんでした。日本ではジュニアは肩身が狭く、「メンバーの目につかないところで練習して」とか言われていた時代です。あまりの環境の差に衝撃を受けて、ゴルフがうまくなるんだったら絶対にこの国に来な

ければと思ったんです。

高校生になると、どんな形で米国に渡りたいという思いが強まって、米国の大学への進学もイメージしていました。でも二〇〇三年にたまたまツアー優勝してプロに転向でき、日本ツアーにフル参戦した二年間で、想像の何倍ものスピードで成長したという実感がありました。もうピンしか見えていなかったですし、怖いものが何もなく、自分のゴルフは通用するという若い自信と勢いで米国に渡ったんです。

**中村** でも、米ツアーではなかなか勝てなかった。自分もつとできるはずなのに……といった葛藤があったのでは。

**宮里** 米ツアーではいろいろアジャストしなければいけません。ピンポジション、コースの芝、そして飛距離の差を埋めなければならぬ。言葉の壁もある。日本ツアーでも試合ごとに調整は必要でしたが、その感覚のまま米国でアジャストしようとし

たら、全部裏目に出て……。どんな状況でも同じテンポでスイングできるという自分の長所まで見失い、米ツアー二年目にはドライバーイップスになってしまいました。ボールをまっすぐ打てないどころか、自分の視界からボールが消えるような感覚に陥り、もう戦えない、私のキャリアは終わったと思いました。初めての大きな挫折でした。

**中村** 日本から批判的な声は耳に入ってこなかったですか。

**宮里** 「なんで日本に帰ってこないの?」とか「日本でやったね?」というのは結構言われましたね。当時の私はボールが真つすぐ打てないから、日本に帰ってきてもいいプレーはできないという状態だったんです。それは日本の選手に対しても失礼だし、私がアメリカに渡ってやりたいと思ったことはアメリカで解決したいという気持ちもありました。

**中村** 私も民間企業でCFO(最高財務責任者)をやっていたとき、とんでもない業績に

なつて、マスコミから「沈む巨艦」だとか「二週三週遅れ」だとか、随分厳しく言われました。いろいろ努力はしているんだけど、その成果というのは後で出てくるじゃないですか。宮里さんは心が折れるようなことはなかったんですね。

**宮里** 日本に一時帰国して出場した試合で、ギャラリーの皆さんから凄く応援していただき、感動したのを覚えています。ティーグラウンドに上がるたびに、がんばれ、がんばれって。私は涙をこらえるのに必死で……。米ツアーでは、ギャラリーがいらない試合もいっぱいあったんです。けれども、日本では全く上位で戦えない状況でも応援してもらえる。見捨てられていないな、忘れられていないなという感覚が、その後の自分を後押ししてくれる原動力になったんです。

**中村** プロゴルフは、努力をしても結果が出ない場合もある。海外でやり続けるには、変化に挑戦するモチベーションの維持



が重要だろうと思いますが、どうして保ち続けられたんですか。

**宮里** 私は兄が二人いたということもあって、競争するのが凄く好きだったんです。兄たちを負かしたいというのが小さい頃の目標。一番上とは九つ、二番目は五つ離れているんですが、勉強とかではなくて、ゴルフでは勝負できるということで、競争の楽しさというのが小さい頃に養えたと思っています。

米ツアーは競争心が激しいです。どの選手も絶対負けたくなくて、それをビシバシ出してくるんです。凄く仲がいい選手でも、試合になった途端、勝負は別。年齢も関係なく、ツアーを何年やっているとか、そういう上下関係も一切なく、この週の優勝に対してどうアプローチするかという、挑戦への行動力が凄いなと思いましたし、競争する楽しさがありました。

分と比べて、どう成長したのかを理解することが大切だということでした。いくら頑張っても、その選手にはなれませんか、体格も違いますから。

**ゴルフ選手としての価値と人間としての価値を切り離す**

**中村** 宮里さんの米ツアーでの初優勝は二〇〇九年、参戦四年目のエビアン・マスターズでした。〇八年九月にリーマン・ショックが発生し、その後の世界的な金融危機の中で、私は寝る間もなく、企業の構造改革に取り組んでいたんですが、宮里さんの優勝を妻とテレビのニュースで見えていて、大変元気をもらいました。スランプをよく乗り越えられましたね。

**宮里** 転機となったのは、「ビジョン54」(注)を提唱するピア・ニールソンとリン・マリオットからメンタルトレーニングを受けたことでした。〇八年一月から二人に教えるを請うようになったんです。

彼女たちは「藍、あなたはもと『自分のテンポ』を持っているのよ」と言うんです。それまで無意識に振っていたスイングのテンポや力加減を意識的に行うことから始め、元々の自分のスイングをひもとき、少しずつ感覚を取り戻して、自信をつけていきました。

また、ビジョン54には、「選手としての価値」と「人間としての価値」は切り離さなければいけない、という考え方があります。彼女たちからは「藍、あなたの選手としての良いところと人間としての良いところを教えて」と、よく質問されました。自分のそれぞれの価値がどこにあるか、常に自覚させられるんです。

アスリートによくあることですが、例えばオリンピックでメダルを取ると選手としての価値は一気に上がります。結果とメダルにしかライトは当たらないので、選手としての価値と人間としての価値を切り離しておかないと、結果が出なかった時

に、自分は悪い人間だと思ってしまうたりする。二つの価値をセットにしていると心がキツくなるんです。

そして、自分もそうでしたが、アスリートである以上、必ず限界が来ます。セカンドキャリアで自分の価値を見いだせるかは、現役の時に選手としての自分と人間としての自分を切り離せているかが大きいんです。

**中村** 企業でも、若い頃は個としての能力で仕事ができちゃうことがあって、その場合、人格に多少難があっても大きな問題にはならない。ですが、組織のリーダーになると人格が重要になってきます。あの人が言うんだったら挑戦しようという雰囲気が生まれることもあれば、その逆もある。リーダーの人格が悪いと、部下はリーダーが正しいと頭で思っても、体が行動に向かわないのです。能力は大事だけれど、人格と合わさることで組織としてのパフォーマンスが出てくるものだと思います。

**宮里** ゴルフは個人競技です



が、現役時代、私の周りにはトレーナーやメンタルコーチ、またスイングコーチの父もいて、一つの小さなチームで組織的に動いていました。常に私が中心で、周りが動くという組織ですが、うまくいかないときもいっぱいありました。とくに父と一緒にやるのは親子であるがゆえにハードルが高い。私もキャリアを重ねるほど自分自身のこういうものが出てきて、父の意見が耳に入らないことが結構あ

りました。その時に何が大事かというと、やっぱり対話でしたね。

私は、チームの中心にいるという責任から、自分の感情で周りを動かしてはいけないという気持ちで常にありました。でもそれだけでは不十分なので、「今こういうふうに思っています」とメールを送ったり、対面で会えるときは「今こういう状況なんです」と話すようにしました。すると、こんなに身近にいるのに言葉にしないと気付かれないんだなということが凄く多かった。対話を通じて自分の感情や考え方を相手に見せることで、初めて歩み寄れる場面もあると気付いたんです。日本人は場の空気を讀んだり相手を洞察したりするスキルが高いですが、海外に出ると「察する」より「話す」なので、そこは日本との違いを凄く感じます。

**中村** コミュニケーションは日本人の苦手なところですからけれども、宮里さんはその能力も海外で磨かれたのではないかと思います。

**宮里** もっとさかのぼると、沖縄で生まれ育ったことも凄くよかったです。ジュニア大会などには基地の米国選手が必ず出ていました。外国人が出ていることについて誰も何も思わない。そのフラットな感覚が小さい頃に養えたのは大きかったですね。父の教育も米国式で、怒ったら理由をちゃんと説明してくれたり、その後には必ずハグをしてくれたり。そういう環境で育ったおかげで、米国に渡るとへのハードルが低くなっていたし、米国の文化がすっと入ってきたんだと思います。

**ジュニア選手に伝える自分と対話するスキル**

**中村** 二〇一七年に三二歳で引退されたときは惜しむ声が多く、「藍ちゃんロス」の現象も起きました。ただ、引退会見はさわやかな雰囲気でお話しされていましたね。

**宮里** 引退を決めた時は、セカンドキャリアで何をやるか全く決まっていませんでした。一年

くらい経って、ジュニアに携わりたいなという気持ちが出てきて、この気持ちを大事に育てていこうと思いました。

自分自身、プロとしてもつとやれたらやりたかったんですが、引退の一番の理由はモチベーションの低下でした。だからこそ、若い選手にはできるだけ長くプレーできるようにってほしいと思っています。アスリートは自分と向き合う時間が凄く長いので、そこでちゃんと自分との対話ができるスキルをジュニアの頃から培ってほしいという思いもあって、「宮里藍インビテーションショナル」というジュニア大会を企画・開催し、

〔注〕 ビジョン54

スウェーデンのナショナルチームのコーチだったピア・ニールソンとリン・マリオットが提唱するゴルフ哲学。ゴルフの規定打数（パー）は七十二。「54」とは一八ホールでパーディーを奪うという究極のスコアを意味する。すべてのホールでパーディーを奪うのは不可能だと考えることで限界を打ち破り、自分の中の可能性を引き出す。女子で初めて「59」を出したアニカ・ソレンスタム（スウェーデン）も二人の指導を受けた。二人は米アリゾナ州にスクールを設立し、プロ・アマチュアの指導のほか、インストラクターの育成など多方面で活躍する。



今年で五年目を迎えました。大会の期間中にビジョン54の講習会を行うのが一番の特色です。この大会を機会に、ジュニア選手に「自分との向き合い方にはこんな方法があるのか」と考え方を広げてほしいんです。

その中で、ジュニア選手からは「ミスが続いているとき、どうしたら悪い流れを断ち切れまするか」という質問をよく受けまします。私は「ミスした直後、すぐ行動しましょう」と答えます。ミスした後のリアクションは記憶に残るので、それから数秒間の行動がとても大事なんです。ミスをして感情的になって、そのショットを記憶に残すことは成功体験につながりません。それよりも、例えば、数を数えながら歩き始め、頭の中を数だけでいっぱいにして、感情が落ち着いてから客観的に振り返る。さっきは右のグリップがちょっと強かったとか原因を分析して、自分を納得させるのです。具体的な行動が、その先のプロセスを変えていきます。

**中村** 私は凄くいい当たりをして、気分が良いまに次を打つたらバンカーに……ということも多いのですが……。

**宮里** うまくいったときは、それを何十秒かイメージに残す努力が必要です。「よかった」だけで終わらすのはもったいない。ゴルフはミスをするスポーツで、プロでも一八ホール回ってドライバーが一回芯を食べばいいなというレベルなんです。だから、一八ホールで五時間くらいプレーする長い時間の中で、小さな成功体験を地道につなげていく作業、つまり良い記憶のほうを残していく作業が凄く重要なんです。実際、難しいショットとバットで見事にバーディーを取っても、それを自分で評価して記憶に残せる選手は少ない。今、ジュニアに伝えていくのは、その成功体験は自分でやったことだから、自分でしっかり評価してくださいということ。「今日できたこと」をしっかりとと言える選手になってほしい。そのことがモチベーション

の維持につながるからです。

そして、何より大事なのが、「スピリット・オブ・ザ・ゲーム」と言いますが、なぜゴルフをやっているのかということ。ゴルフが上手な子でも、実は、答えられる選手は少ないんですね。アスリートには技術や結果だけじゃなくて、人間性の部分も凄く求められる時代なので、発信するための言語化のスキルも凄く重要です。ジュニアの選手たちには、自分の夢とか目標を声に出して言える選手になってほしいと話しています。

**中村** 私は昭和の時代に、週に二日も三日も会社で徹夜していました。それでも、家族が健全に成長してこられたのは妻のおかげで、彼女は人生の戦友だと思っています。宮里さんも家族を大切にされているイメージが強いですが、家族とはどのような存在でしょうか。

**宮里** 自分が年を重ねれば重ねるほど、家族には凄く恵まれたなと感じます。両親にもプロゴルファーである兄二人にも、感

謝の気持ちがずっと強かったんです。スランプの時に毎日電話してくれて、五時間も話したこともありました。そして、自分が年齢を重ねてくると、そこに尊敬の念が加わってきたんですね。私も親の立場になって、どうやったら家族にこんなに凄いことをできるんだろうと感じますし、兄たちが父親として頑張っている部分が見えてきて、凄いなと尊敬の部分がどんどん増してきています。

娘が生まれたとき、絶対ゴルフはさせないと思っていました。でもやっぱりゴルフは楽しい。ゴルフはほぼ一日がかりなので、多くの時間を共有します。そんなスポーツはなかなかありません。私は、一緒に回る人のプレーから「何を考えているか」がだいたい分かりますし、ゴルフから自然に対話も生まれますので、自分の娘とも楽しくゴルフができたらいなと思っています。

**中村** 本日はありがとうございます。

日本銀行業務局 総務課国庫業務企画グループの仕事

# 国庫金のキャッシュレス納付と「推進宣言」

所得税や消費税、年金保険料といった「国庫金」のキャッシュレス納付が進んでいます。それによって書類の削減など社会的コストを減らしていることから、日本銀行では、国税庁などの官庁や自治体、金融機関と連携して、さらなるキャッシュレス納付比率向上に向けた取り組みを行っています。二〇二四年五月には「国税・地方税キャッシュレス納付推進全国宣言」も行い、納付者・関係者に向けてその意義や利便性のアピールもしました。その推進に取り組む業務局総務課国庫業務企画グループの活動や職員の思いを紹介します。

## 社会的コストを大幅削減できる

個人・企業と国の間で生じる国庫金を扱う業務は、「政府の銀行」である日本銀行が担っています。その規模は、国から個人・企業への支払いは約三・七億件、個人・企業から国への受入れは約一・三億件と膨大です（二〇二三年度実績）。

その取り扱い、かつては日本銀行の本支店や代理店となる金融機関の窓口で現金で行われていましたが、二〇〇〇年に国庫金事務の電子化に着手し、二〇〇四年には国税や国民年金保険料の

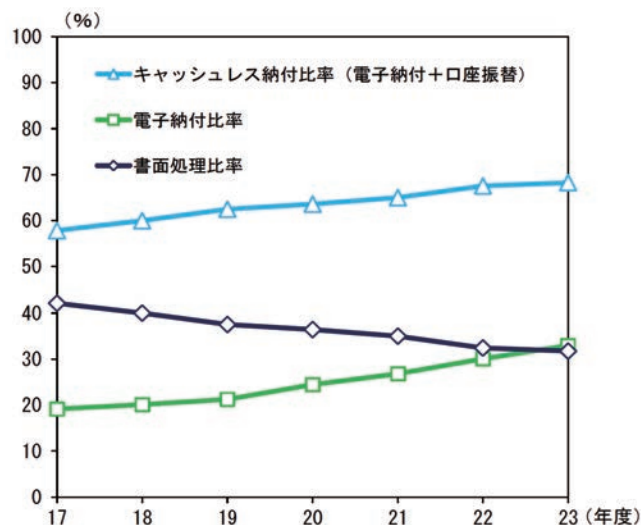
電子納付が実現しました。現在では、インターネットバンキングやATM等で利用できるPay<sup>ペイジー</sup>やと呼ばれる決済サービス、クレジットカード払い、スマートフォン決済アプリでの支払い（Pay<sup>ペイジー</sup>払い）など納付手段の選択肢が広がっています。こうした着実な取り組みの結果、二〇二三年度では国庫金のキャッシュレス納付比率は六八・二％にまでなりました。ただし、国税に限定するとその比率は三九％にとどまるなど課題も見えています。また、交通反則金も、依然現金納付が中心です。

## キャッシュレス納付のメリット

|    | キャッシュレス納付 |              |            |          | 現金納付          |        |
|----|-----------|--------------|------------|----------|---------------|--------|
|    | ダイレクト納付※  | インターネットバンキング | クレジットカード納付 | スマホアプリ納付 | 窓口納付          | コンビニ納付 |
| 時間 | 都合の良い時に   |              |            |          | 営業時間内で終了      |        |
| 場所 | 自宅やオフィスから |              |            |          | 金融機関<br>税務署   | コンビニ   |
| 手間 | 簡単な操作で完了  |              |            |          | 書類の作成・移動・待ち時間 |        |

※e-Taxを通じた口座振替（複数口座の登録や納付日の指定も可能）。

## 電子収納比率



(注) 電子納付比率＝「電子納付」／「国庫金受入」  
キャッシュレス納付比率＝（「電子納付」＋「口座振替」）／「国庫金受入」



「現金納付の場合、金融機関窓口に提出された納付書がまとめて日本銀行に輸送されてきます。それを当行の専用のOCR（光学文字認識）で読み取り、データ化して官庁と共有するのですが、この間にかかる社会的コストは無視できるものではありません。輸送費、紙の納付書の製造費、仕分けや読み取りにかかる労力、何より、納付者ご自身の移動の手間や銀行での待ち時間など、キャッシュレス納付ならカットできるコストが多大です」

と話すのは、同グループ長で企画役の大竹真さんです。ほとんどの国庫金でキャッシュレス納付が可能なこと、から、「いかに知っていただくかが大事です」と話します。

### 全国宣言で納付者にアピール

多くの納付者にキャッシュレス納付の利便性をアピールしたい——その思いが結実したものに、今年五月三十日の「国税・地方税キャッシュレス納付推進全国宣言」があります。国税庁、総務省、金融庁、地方税共同機構、全国銀行協会、全国地方銀行協会などと共にこの宣言を発するに当たっては、日本銀行も大きく貢献しました。

一年半をかけた準備の過程では、他の

官庁や金融機関との白熱した議論があったといいます。担当した国庫業務企画グループ企画役の黒岡映美さんは、こう振り返ります。

「『宣言』と合わせて、六〇ページに及ぶ『国税・地方税のキャッシュレス納付共同レポート』も作成したのですが、どこまで専門的に掘り下げるか、個別の取り組みを紹介するかで、かなり熱い議論になりました。そういう中で、日本銀行は、官庁でも一般の金融機関でもない中立した立場として、一定の調整役を担えたと思います」

宣言では、「社会全体のデジタル化の推進は私たちにとって共通の課題」と明示したうえで、「誰一人取り残されることのないデジタル社会を実現」と謳（うた）いました。この点を黒岡さんは「単にキャッシュレス納付比率を上げるだけなら、書面での納付を取りやめるなど方法があります。しかし、そうはせずに、『便利だから選んでほしい』と呼びかけていくのが私たちの基本姿勢です。それがこの部分に表れていると感じます」と評しています。

宣言を発するに当たっては、「宣言式」も行いました。二三の団体の代表者からなる共同宣言者のほか、各団体の随行者約五〇人、さらに、NHKや新聞社、税

関係の専門誌など一三のメディアが詰めかけ、その模様が全国的に報じられました。式典には、日本銀行からは貝塚正彰理事が出席し、「宣言を機に、より一層、行政や金融機関、関係団体の連携を深め、一丸となって取り組んでいきましょう」と挨拶しています。そのほか、精力的に取り組んでいる金融機関として、りそな銀行、埼玉りそな銀行、北國銀行の三行に国税庁長官から感謝状が贈呈され、今後の連携のベースとなる「キャッシュレ



上／「国税・地方税キャッシュレス納付推進全国宣言」に携わるメンバー

左／「国税・地方税キャッシュレス納付推進全国宣言式」を開催



宣言式で挨拶を行う  
貝塚正彰理事



宣言式には 23 団体の代表者が出席

ス納付推進協議会」の発足も発表されました。その第一回会合は宣言から四カ月後に開かれており、協働が継続しています。

「国民生活を支えるために普段は黒子に徹している関係者たちが、この宣言においては『自分たちが社会を変えていくんだ』という意識を持って、より意欲的に取り組んだように思います」

と振り返るのは、当時、関係者と交渉し、「共同レポート」の草稿を書くなど実務を担った営業・国債業務企画グループの今井英晴さんです。日本銀行のホームページ内にある「国庫金事務のデジタル化」のこ

ンテンツの整理にも尽力しました。

「知ることから興味が広がるので、情報提供が重要です。共同レポートでは、関係者が読むことを意識しつつも、『そもそも日本銀行の役割って何?』という一般の方に向けた基本の部分も盛り込みました。ホームページも同様で、図表を使うなどして、分かりやすく整理したつもりです」

### 地域で進む「宣言」と連携

宣言に象徴される関係機関の連携は、全国規模のものだけではありません。地域レベルでも、各地で実施されています。

その連携の一つに、東京国税局や東京都、神奈川県、千葉県、山梨県などが参加する「東京国税局管内キャッシュレス納付推進協議会」があります。全国に先駆けて二〇二〇年に発足し、翌二〇二一年には、金融機関など計一二六団体が参加しての「キャッシュレス納付共同推進宣言」も行われました。その後、国税・地方税共通リーフレットの作成や合同キャンペーンなどを実施してきています。

この協議会および宣言に、日本銀行本店も当初から関わってきました。研修資料の作成などでは、国庫金のキャッシュレス納付の状況を提示するなど、日本銀

行だからできる貢献をしてきています。

「納付を直接受けるのは地域の金融機関や税務署なので、それぞれの地域の官庁・関係機関が一体になって主体的に取り組んでいくことが重要です。先行して取り組んだ東京国税局管内は全国的に見てキャッシュレス納付比率が高くなっており、こうした成果が、全国各地での宣言の広がりや全国宣言につながっているものと思います」

そう話すのは、地域連携を担当する国庫業務企画グループの杉浦直希さんです。協議会で明確になった課題には税理士への働きかけなどがあり、現在検討されている税理士向けの研修についてはこう説明します。

「国税での電子申告比率は約七割に達するのですが、キャッシュレス納付比率は四割弱となっており、申告と納付でデジタル化の進展度合いにギャップが見られます。その理由は、『申告は税務の専門知識を有する税理士が担い、納付は企業の担当が担う』というケースが多いことにあるようです。企業担当の方は、他の用件と併せて銀行窓口を訪れた際に納付を済ませてしまうことも多く、キャッシュレス納付が進みにくい状況です。これを受けて、e-Taxを使って電子申告し





ている税理士に納付までしてもらえるよう、今年四月から、国税の申告データ送信時に必要事項にチェックを付すだけで、法定納付期限当日にキャッシュレス納付が可能となる自動ダイレクト機能が追加されました。こうした機能改善も踏まえ、税理士への働きかけを通して、キャッシュレス納付比率の向上につなげることを目指しています」

このような地域と密接に関わる活動においては、各支店もさまざまな役割を果たしています。その実情を紹介するのは、同グループ副長で企画役補佐の羽柴慎太郎さんです。

「国税局等と連携のうえ、『宣言』をする地域もあれば、支店長などが直接金融機関と意見交換をするところもあり、取り組みは多種多様です。ただ、日本銀行から情報提供をしていくという役割はどこも同じです。日本銀行では年に一回、全国の金融機関の協力でアンケート調査

を行っており、キャッシュレス納付を推進するための具体的な施策や課題などをまとめています。支店を通してこうしたデータを全国の現場に提供し、推進

の材料にいただいています」

なお、日本銀行の本支店が連携する各地域の国税局等では、このほかにもキャッシュレス納付の推進に向けてユニークな取り組みを行っています。具体的には、▼リーフレットに漫画を掲載（関東信越国税局）、▼キャッシュレス納付推進大使（浦和税務署）、▼商品券が当たる口座振替キャンペーンの実施（沖縄国税事務所）などがあり、各地で工夫が凝らされています。

一度試せば、  
便利さが実感できるはず

この数年でデジタル化が急速に進んでおり、国では、二〇二一年にデジタル庁発足、二〇二二年に通称「キャッシュレス法」が施行されるなどしています。そうした中で日本銀行では、関係省庁と足並みをそろえながらDXを進めています。その一環となる国庫金のキャッシュレス納付推進は、まさに喫緊の重要課題です。

それを推進するに当たって「全国宣言は一つの区切りになる」と語るのは、国庫金業務を束ねる立場にいる業務局参事役の高野裕幸さんです。実は前任の熊本支店長の時に熊本地域の宣言に関わった経験があり、現場での実感からも、その

意義をこう説明します。

「全国宣言がなされたことで行政や金融機関、関係団体など関係者の意識がそろったというメリットが大きいです。また、納付者に直接働きかけるうえでも、宣言があると話のきっかけを作りやすくなります。今後、より一層銀行窓口などでのPR活動が進むものと期待しています」  
最後に高野さんは、納付者に向けてこうメッセージを寄せてくれました。

「試していただければ利便性を感じていただけたと思います。ぜひ、『いつでも・どこでも・便利な』キャッシュレス納付をご利用ください」

（肩書などは二〇二四年七月中旬時点の情報をもとに記載）

## 国税・地方税キャッシュレス納付推進全国宣言書

### 国税・地方税キャッシュレス納付推進全国宣言

社会全体のデジタル化は、国民生活の利便性を向上させ、官民の業務の効率化や生産性の向上に資するものであり、その推進は、私たちにとって共通の課題です。これまで、国税当局、地方税当局及び関係団体においては、キャッシュレス納付の利便性向上と普及促進に向けて、様々な取組を進めてまいりました。また、金融界においても、税・公金収納の効率化・電子化に向けて、様々な関係者に働きかけを行ってまいりました。

こうした取組のもと、キャッシュレス納付の利用割合については、年々上昇傾向にありますが、未だ普及の余地が大きい状況にもあります。

より多くの方々がキャッシュレス納付の恩恵を享受し、誰一人取り残されることのないデジタル社会を実現できるよう、また、事業者の業務のデジタル化など社会全体のデジタル化が実現できるよう、私たちが一層連携し、協力して取り組んでいくことが重要であると認識しています。

私たちは、こうした共通認識のもと、キャッシュレス納付の一層の普及に向けて、共同して推進していくことを宣言します。

令和6年5月30日

〔共同宣言者〕

|                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 日本銀行                  | 日本税理士会連合会        |
| 一般社団法人全国銀行協会          | 一般社団法人全国青色申告会総連合 |
| 一般社団法人全国地方銀行協会        | 公益財団法人全国法人会総連合   |
| 一般社団法人第二地方銀行協会        | 全国関税会総連合会        |
| 一般社団法人全国信用金庫協会        | 全国納税貯蓄組合連合会      |
| 一般社団法人全国信用組合中央協会      | 公益財団法人納税協会連合会    |
| 一般社団法人全国労働金庫協会        | 全国知事会            |
| 農林中央金庫                | 全国市長会            |
| 日本マルチペイメントネットワーク推進協議会 | 全国町村会            |
| 日本マルチペイメントネットワーク運営機構  | 地方税共同機構          |
| 金融庁                   | 総務省              |
|                       | 国税庁              |



# 日本銀行のレポートから

日本銀行は、金融システムの安定性を評価するとともに、安定確保に向けた課題について関係者とのコミュニケーションを深めることを目的として、金融システムレポートを年2回公表しています。本レポートの分析結果は、日本銀行の金融システムの安定確保のための施策立案や、考査・モニタリング等を通じた金融機関への指導・助言に活用しています。また、国際的な規制・監督・脆弱性評価に関する議論にも役立てています。金融政策運営面でも、マクロ的な金融システムの安定性評価を、中長期的な視点も含めた経済・物価動向のリスク評価を行ううえで重要な要素の一つとしています。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。<https://www.boj.or.jp/research/brp/fsr/index.htm>



## 「金融システムレポート」

二〇二四年十月

わが国の金融システムは、全体として安定性を維持している。

金融仲介活動は円滑に行われている。貸出市場では、貸出金利が上昇するも、企業は資金需要は増加しており、金融機関の融資姿勢も引き続き積極的である。こうした金融仲介活動に、大きな不均衡は認められない（次ページ図表1）。

わが国の金融機関は、内外の金融市場や実体経済に大幅な調整が生じるリーマンショック型のストレスや、グローバルな金利上昇と実体経済の減速が同時に生じるストレスに対して耐え得る、充実した資本基盤と安定的な資金調達基盤を有している。もともと、先行きの国際金融市場や地政学的リスクの動向など、テールリスクへの警戒は引き続き重要である。より長期的な視点からみ

ると、人口減少などを背景に企業の借入需要が構造的に減少する状況が続いた場合、貸出市場の需給バランスによっては、金融機関の収益力や損失吸収力が低下し、金融仲介活動の停滞や、過度な利回り追求など金融仲介活動の過熱につながる可能性がある。以下では、これらの観点も踏まえつつ、わが国金融システムを巡るリスクや脆弱性について点検する。

### 資産価格の動向

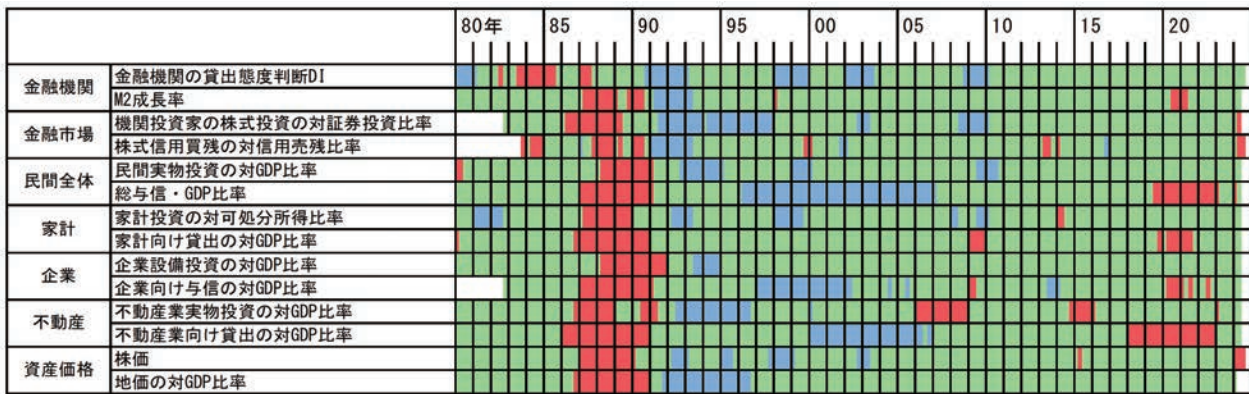
株式市場について、ヒートマップを構成する「株価」と「株式信用買残の対信用売残比率」、「機関投資家の株式投資の対証券投資比率」をみると、トレンドからの上方乖離を示す「赤」が点灯している（次ページ図表1）。八月初には、米国の景気減速懸念を契機とする投資ポジション

の巻き戻しの影響などから、グローバルに資産価格が変動した。この間、P/Eは過去平均的な水準での推移を続けており、バリュエーション上、大きな過熱感は見られない。もともと、わが国の金融機関が相応の株式リスク量を有していることを踏まえると、資産価格の動向については留意する必要がある。

また、わが国の不動産市場では、不動産貸出の趨勢的な増加が続くも、一部に価格の割高感が窺われる。「商業用不動産価格・賃料比率」は、ミニバブル期の水準を上回っているほか、都心の商業地区において、局所的な高額の取引がみられている（次ページ図表2）。また、不動産取引業の一部では販売在庫水準も高まっている（次ページ図表3）。都心のオフィス空室率が最近では低下に



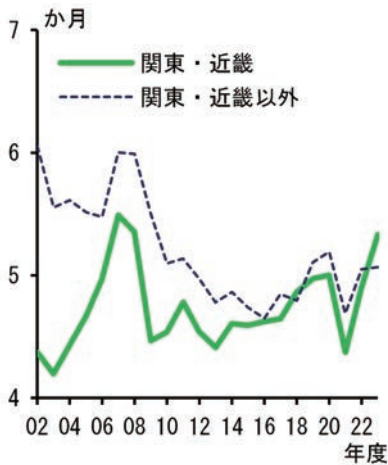
図表1 ヒートマップ



(注)「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表Ⅲ-3-1 参照。

(資料) Bloomberg、財務省、東京証券取引所、内閣府、日本不動産研究所、日本銀行

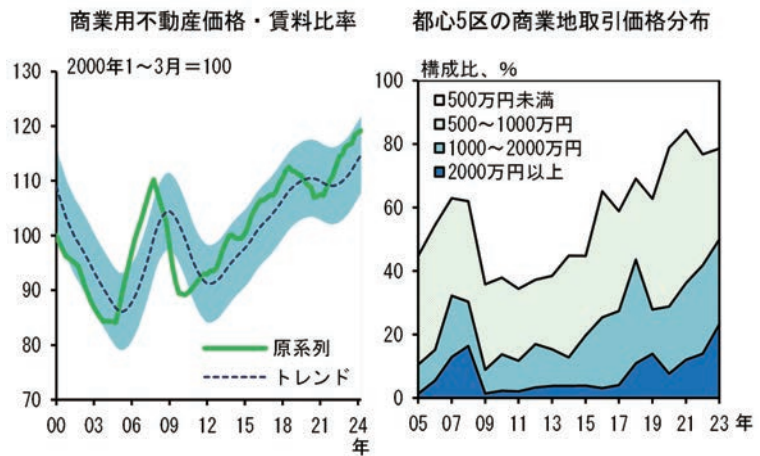
図表3 不動産取引業の棚卸  
資産回転期間



(注)「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表Ⅲ-3-8 参照。

(資料) CRD 協会

図表2 商業用不動産価格



(注)「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表Ⅲ-3-5、図表Ⅲ-3-7 参照。

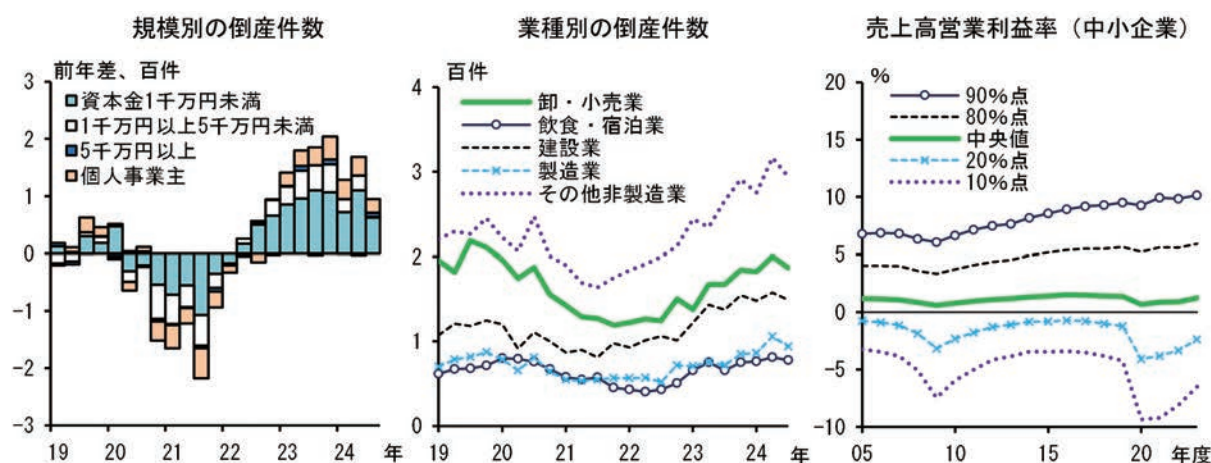
(資料) 国土交通省、日本銀行

金融機関の信用リスクについてみると、わが国経済が緩やかな回復を続けるもと、多くの企業で財務が改善した状態が続いており、全体として貸出債権の質は維持されている。また、金融機関の信用コスト率は低位に抑制されている。もともと、原材料価格高や人件費上昇の影響もあり、収益の改善ペースが鈍い企業も存在するなど、企業財務のばらつきは大きく、倒産件数やデフォルト率は

### 景気改善のなかでの 倒産・デフォルト動向

転じているほか、不動産業の財務状況は景気回復とともに改善が続いており、デフォルト率も低位で推移しているものの、他業種と比べてレバレッジ比率の水準が高く金利感応度も高い点には留意が必要である。海外ファンドによるポートフォリオ・リバランスの一環として、日本の投資物件を売却する動きが引き続きみられていることも踏まえると、不動産市場の先行きには一段と注意していく必要がある。

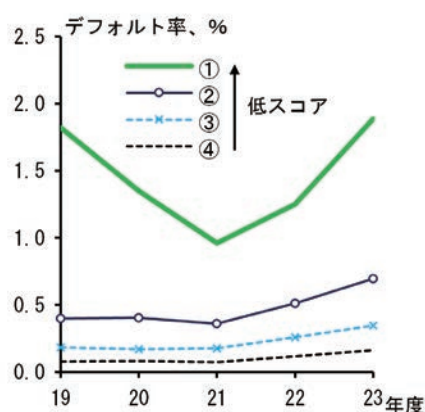
図表4 倒産件数と企業財務



(注) 「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表IV-1-4、図表IV-1-6 参照。

(資料) CRD 協会、帝国データバンク

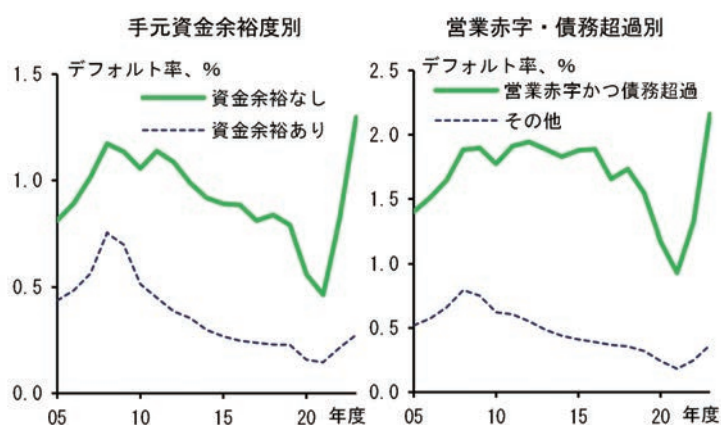
図表6 感染拡大前の信用スコア別にみた実績デフォルト率



(注) 信用スコア（四分位）は、モデルを用いて推計した2018年度時点のデフォルト確率に基づく。「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表IV-1-8 参照。

(資料) CRD 協会

図表5 企業特性別にみた実績デフォルト率



(注) 「資金余裕なし」は手元資金（期初の手元流動性と期中の営業キャッシュフローの合計）が販管費の半年分未満の先、「資金余裕あり」は半年分以上の先。「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表IV-1-7 参照。

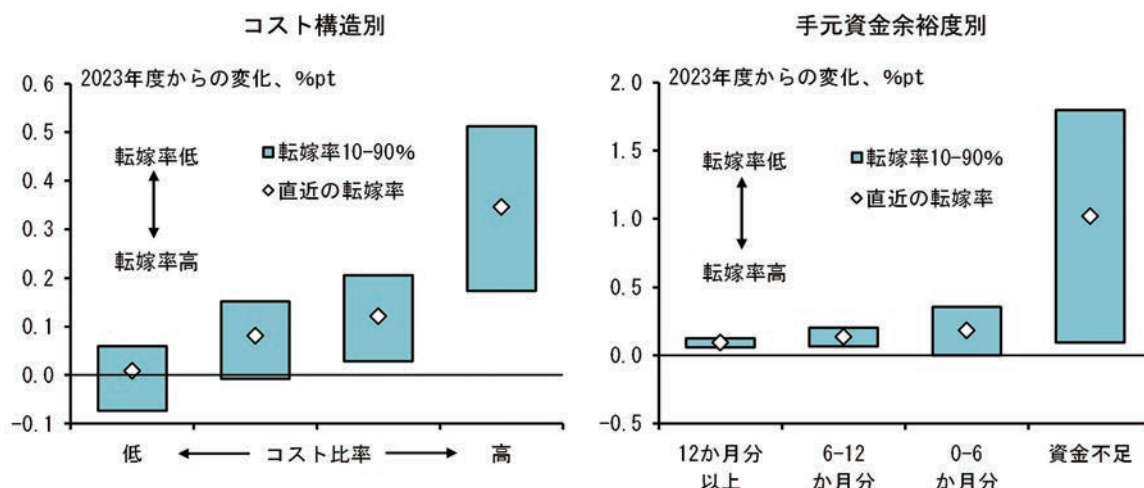
(資料) CRD 協会

感染症拡大前を上回っている（図表4）。デフォルト企業の財務内容を仔細にみていくと、直近では、相対的に手元資金に余裕のない企業や、営業赤字かつ債務超過の企業など、財務面で脆弱性を抱える企業のデフォルト率が上昇している（図表5）。こうした企業のデフォルト率は、感染症拡大後に企業金融支援策等を背景に一旦低下した後には上昇しており、既往の脆弱性がラグを置いて顕在化したことによるものである可能性を示唆している。実際、デフォルト企業を、感染症拡大前の財務内容で評価した信用スコア別に均等ウェイトで区分けしてみると、二〇二三年度のデフォルト企業のうち相応の先は、感染症拡大前から脆弱であったことが示唆される（図表6）。もともと、当時は脆弱ではなかった企業のデフォルト率も小幅に上昇しており、感染症拡大以降に発生したコスト上昇などのショックの影響が表れている可能性がある。

足もとのコスト上昇圧力がデフォルト確率に与える影響を試算する



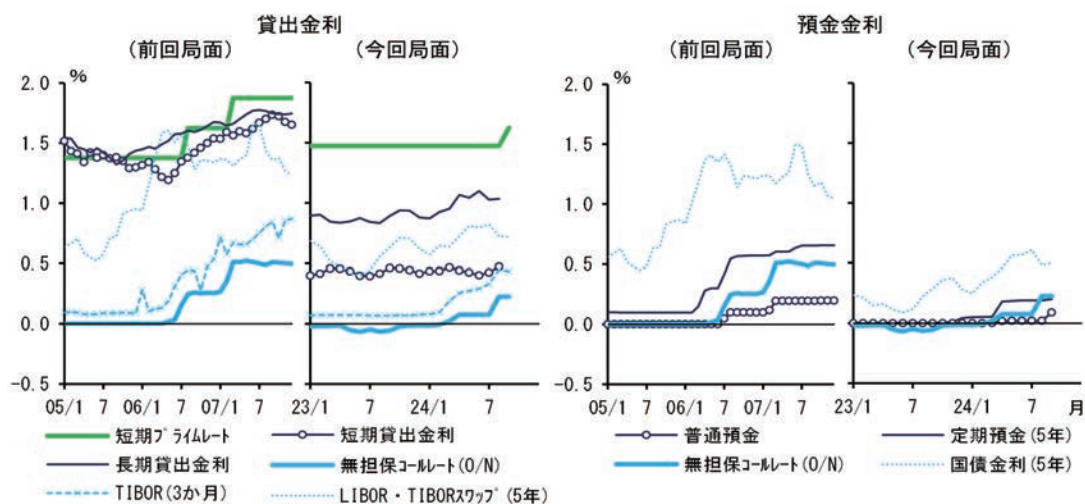
図表7 コスト構造・財務別のデフォルト確率上昇幅



(注) デフォルト確率モデルによる推計値（2023年度から2024年度にかけての変化）。バンドは、仮想的に価格転嫁率を変化させた場合のレンジ。「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表IV-1-12参照。

(資料) CRD 協会、財務省、帝国データバンク、日本銀行

図表8 貸出金利と預金金利（前回利上げ局面との比較）



(注) 直近は、市場金利・短期プライムレート・預金金利が2024年9月、貸出金利が2024年8月。「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表IV-4-7参照。

(資料) Bloomberg、Haver Analytics、財務省、日本銀行

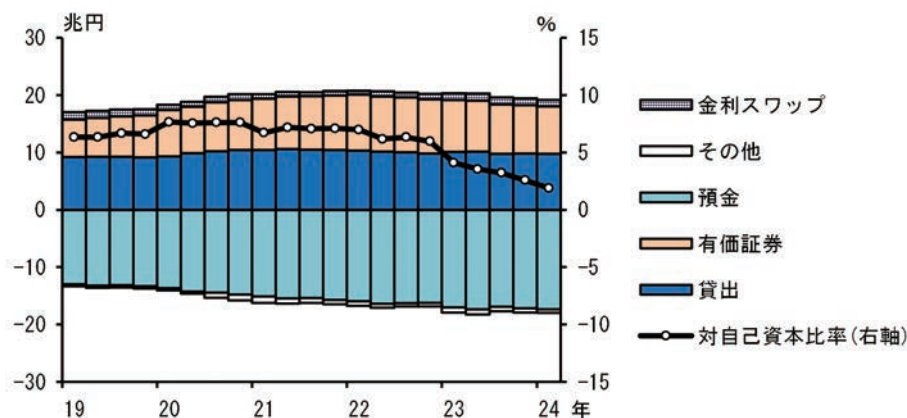
## 市場金利の上昇が 貸出金利・預金金利に 及ぼす影響

と、価格転嫁率によって相応に異なるものの、売上原価と人件費負担が売上高対比で大きい企業や、手元資金に余裕のない企業ほど、コスト上昇時のデフォルト確率の上昇幅が非線形的に拡大することが確認された（図表7）。

日本銀行は、本年三月に金融政策枠組みの見直しを行ったあと、七月に政策金利を引き上げた。短期金利（無担保コールレート翌日物）は、三月以降〇・〇～〇・一％の範囲で推移していたところから上昇し、〇・二五％程度で推移している。そのもとで、金融機関は、市場金利の変化も踏まえて貸出金利や預金金利を設定しており、その影響は、様々な経済主体に及んでいくことになる。

前回レポート以降の貸出金利の動向についてみると、長期貸出にかかると、新規約定金利は、主な参照金利である中期ゾーンの市場金利が政策金

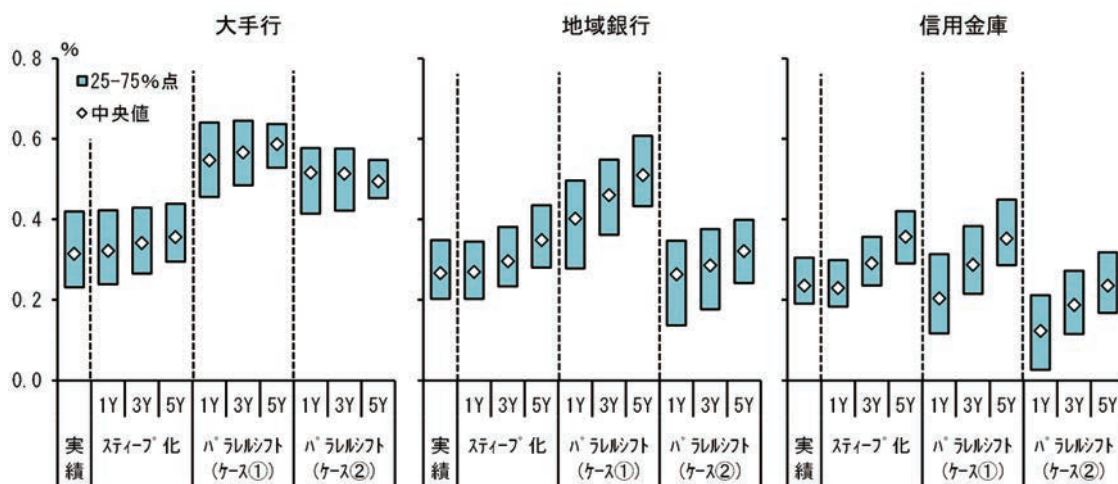
図表9 銀行勘定の金利リスク量



(注) 円貨金利リスク量 (100bpv)。「金融システムレポート (2024 年 10 月号) 全文」図表IV-4-1 参照。

(資料) 日本銀行

図表10 コア業務純益ROAの水準



(注) いずれも10年金利が+1% pt上昇した場合のシミュレーション結果。「スティープ化」は短期金利不変、「パラレルシフト」は短期金利も+1% pt上昇。短期プライムレート連動型貸出と固定金利貸出の追従率は、「スティープ化」と「パラレルシフト (ケース①)」では100%、「パラレルシフト (ケース②)」では50%と想定。横軸は、金利上昇後の経過年数を示す。「金融システムレポート (2024 年 10 月号) 全文」図表IV-4-6 参照。

(資料) 日本銀行

## 金融機関と 企業・家計の金利耐性

金融機関は、有価証券ポートフォリオのバランスを進めており、円債はデデュレーションが短期化している。こうした取り組みを反映して、円金利上昇に対する金融機関の耐性は、高まる方向にある(図表9)。

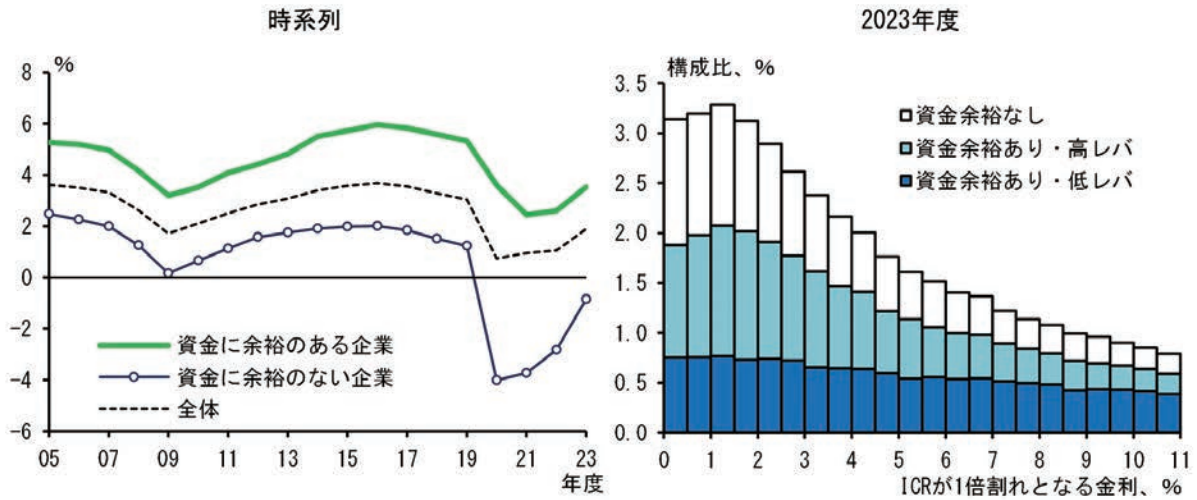
円金利上昇は、やや長い目でみれば、貸出金利・預金金利の変化などを通じて、全体として金融機関の利

利に先行して上昇してきたことから、緩やかに上昇している(図表8左図)。短期の貸出金利については、これまで概ね横ばいで推移してきたが、九月入り後に引き上げられた短期プライムレートの影響について確認していく必要がある。

預金金利も、定期預金金利が先行して上昇してきたが、足もとでは、普通預金金利も〇・一%程度まで上昇している(図表8右図)。その上げ幅は、二〇〇六―二〇〇七年の前回利上げ局面と同様に、政策金利の上昇幅と比べてやや小さくなっている。



図表11 借入超の中小企業におけるICR1倍割れとなる借入金利



(注) 集計対象は中小企業のうち借入超企業（有利子負債が現預金を上回る企業）。「資金に余裕のある企業」は手元資金が販管費の半年分以上の先、「資金に余裕のない企業」は半年分未満の先。「金融システムレポート（2024年10月号）全文」図表IV-1-16 参照。

(資料) CRD 協会

息収支を押し上げていくとみられる。もっとも、預貸金利の追従率は、貸出・預金市場の需給バランスや競争環境、金融機関のサービス提供力や顧客との関係などに応じて変わり得るため、金融機関収益への影響には相応の不確実性がある。円金利上昇による各金融機関のコア業務純益の変化を、イールドカーブの形状や貸出金利の追従率に幾つかの想定を置いたもとで試算すると、シナリオによっては、固定金利債権や満期の長い有価証券が多い金融機関を中心に、収益が一時的に下押しされるケースもみられるが、いずれの業態でも増加していくことが示唆される（前ページ図表10）。

家計の金利耐性については、近年、年収に対する年間返済額比率（DSR）の高い若年世代において住宅ローン保有世帯が増えている。もっとも、住宅ローンにおける「五年ルール」や「一二五%ルール」といった激変緩和措置は、短期的な返済負担増を抑制する方向で作用する。また、やや長い目でみれば、景気が緩やか

に回復し、賃金上昇が続くもとで、返済負担は徐々に軽減されていくと考えられる。

企業の金利耐性について、利払い能力を示すインタレスト・カバレッジ・レシオ（ICR）が1倍割れとなる借入金利の水準をみると、足もとの収益の回復を反映して全体として上昇しつつあるほか、資金に余裕がある企業では、相応に高い金利であっても利払い負担に耐え得る収益力が確保されている（図表11）。一方、全体からみれば一部であるものの、現時点での貸出金利水準の近傍でICRが1倍割れとなる企業については、手元資金に余裕のない企業や手元資金があってもレバレッジが高い先など、利払い負担に対して脆弱な企業もみられる。

日本銀行は、調査・モニタリング等を通じて、これらの潜在的な脆弱性に対する金融機関の取り組みを促していく。また、マクロブルーデンスの視点から、金融機関による多様なリスクテイクが金融システムに及ぼす影響を引き続き注視していく。

## 「決済システムレポート」を公表（九月）

▼日本銀行は、九月十日に「決済システムレポート」を公表しました。「決済システムレポート」は、わが国の決済システムを巡る動きを概括するとともに、決済システムの安全性・効率性の改善に向けた日本銀行ならびに関係機関の取り組みを紹介することを目的として作成しています。

▼今回のレポートでは、前回レポートを公表した二〇一九年以降の決済システムを取り巻く環境変化を踏まえつつ、わが国の金融市場インフラ（FMI）の動向やFMIを巡る国際的な議論の動向、G20におけるク

スボーダー送金の改善に向けた検討、金融サービス分野の標準化、一般利用型の中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みを紹介した上で、「決済の未来」について論じています。

▼日本銀行では、わが国の決済システムが、伝統的な決済システムの利点を活かしつつ、新しい技術を上手に取り込み、全体としてより良い仕組みとなるように、決済サービスの提供、決済インフラのオーバーサイト、関係者の検討の触媒役などさまざまな面から取り組みを続けていきます。



## 「CBCDCフォーラム全体会合（第三回）」を開催（十月）

▼日本銀行は、中央銀行デジタル通貨（CBCDC）に関する「パイロット実験」を実施する中でCBCDCフォーラムを運営しています。同フォーラムでは、CBCDCの制度設計を適切に進める観点から、CBCDCのエコシステムを支える民間事業者の業務やシステム、CBCDC利用

者の本人確認・認証等や利用デバイス、他の民間マネーとの共存、将来的に活用され得る技術に関するテーマについて、複数のワーキンググループを立ち上げてリテール決済に関わる民間事業者と議論・検討を進めています。

▼十月十七日、十八日にオンライン形式で開催した「CBCDCフォーラム全体会合（第三回）」では、CBCDCフォーラムでこれまで議論してきたテーマや今後議論していくテーマ、パイロット実験の中で別途実施している実験用システムの構築状況およびCBCDCに関する国内や海外主要国の取り組み等について日本銀行より説明し、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼日本銀行は引き続き、CBCDCフォーラムでの議論・検討を通じて得られる民間事業者の技術や知見を日本銀行における実証実験と制度設計面の検討に活かしていきたいと考えています。

▼本会合の議事概要やCBCDCフォーラムに関する最新情報

は、日本銀行ホームページをご覧ください。



## 貨幣博物館企画展「描かれた江戸の商人―販促ツールと商いの秘訣―」開催中

二〇二五年二月二日（日）まで

▼貨幣博物館のある江戸・日本橋をはじめ、都市では、古くより商人らによってさまざまな販売方法や流通の仕組みが編み出されてきました。そして、多様な宣伝方法により、人気のある店や商品に関する情報があふれ、日々活発な売買が繰り広げられていました。

▼本企画展では、江戸から明治時代にかけて活躍した商人に焦



白酒売り（棒手振）



## 編集後記

■今年も早いもので残り1週間となりました。今年は元日の能登半島での震災に始まり、内外で多くの自然災害に見舞われました。被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。海外では、ウクライナでの戦争や中東での紛争も続きました。来年こそは、世界の人々が安心して暮らせる一年になることを祈っております。

■「インタビュー」にご登場いただいたジャズピアニストの綾戸智恵さんには、その素敵な歌だけでなく、明るく前向きな生き方から、元気や勇気をもらっている方も少なくないと思います。今回は、綾戸さんの人生観とその背後にあるお母さんの存在について語っていただきました。インタビュー後に綾戸さんのコンサートに伺いましたが、まさにその人生観を体現したステージで、心から感動し元気をもらいました。

■「対談」では、プロゴルファーの宮里藍さんと中村審議委員が、苦しく辛い時期を乗り越えた経験を語られています。われわれはどうしても優勝や世界ランキング1位といった輝かしい面にばかり目を向けがちですが、その裏にある競技者の血のにじむような努力や葛藤、家族への想いなどを率直に語っていただいています。質問に対して真摯に心のこもった言葉を返される姿に、藍ちゃんファンの多さも納得です。もちろん、私もファンになりました！ (小牧)

## [アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho\_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(https://www.boj.or.jp)をご覧ください。

にちぎん 2024年冬号  
編集・発行人 小牧義弘  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎ 03-3277-1947



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
禁無断転載



楊枝屋の店先



引札

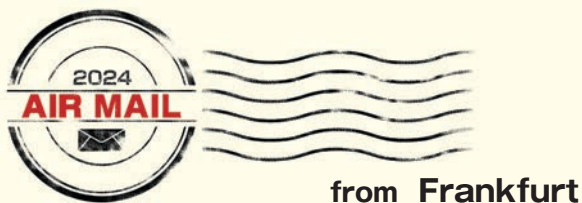
点をあて、貨幣博物館所蔵の浮世絵やすごろくなどの絵画資料

の中から商いの様子をご紹介します。また、当時使われていた商家の看板や、商人たちが販売スタイルに合わせて使い分けていた数々の道具類を初めて公開します。加えて、江戸時代に商売の販促ツールとして使われた出版物「引札(広告)」などもご紹介します。

▼商いが大きく発展した江戸時代、商売に関わる人々が効果的な販売促進のために重ねた工夫から、現在にもつながる商いの秘訣を垣間見ていただければ幸いです。

【入館料】無料  
【休館日】月曜日(ただし祝日は開館)、年末年始(十二月二十九日～一月四日)  
【開館時間】午前九時三十分～午後四時三十分(入館は午後四時まで)  
※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。  
【所在地】東京都中央区日本橋本石町一三ー一  
【お問い合わせ先】金融研究所 貨幣博物館  
〇三ー三七七  
一三〇三七





## 平和への願いが込められた 欧州統合



欧州統合の象徴「ユーロ」のモニュメント  
(欧州中央銀行があるドイツ・フランクフルト)

欧州で暮らす人々の生活に、欧州統合は深く関わっています。日々の生活では、欧州の共通通貨「ユーロ」が使われています。1999年にEU加盟国のうち11カ国でユーロが導入されて以降、ユーロ圏は20カ国にまで拡大しています。欧州で暮らす人々は、この20カ国で、為替レートを気にすることなく、20カ国の力を結集することで価値が安定したユーロを自由に使うことができます。

そして、私が住むドイツでは、隣の国との「国境がない」ことが実感できます（実際にはあります）。例えば、フランス・アルザス地方の中心都市ストラスブールに向かう国境では、両国をつなぐ橋があるだけで、「ここからフランス」とか「フランスへようこそ」のような標識はありません。人々は自由に往来をしています。散歩をする人もいれば、サイクリングを楽しむ人もいます。路面電車も走っています。

このように、欧州統合によって、欧州の人々の暮

らしは、とても便利になっています。その一方で、欧州統合に反対する意見や、移民対策のために国境管理を厳しくすべきといった意見もあります。ギリシャ危機やイギリスのEU脱退という大きな出来事もありました。幾多の困難に直面しながらも、欧州は国民の総意として、統合を進めるために合意と協力を積み重ねてきました。その理由について、欧州の多くの方は「その根底には平和への願いが込められている」と言います。

第2次世界大戦の終結まで、欧州の歴史は、戦争が中心でした。そのような欧州の市民同士の殺し合いは、もう二度と、絶対に起こしたくない、という切なる願いが、欧州統合を支えているのだそうです。欧州で暮らす一員として、私自身もその平和への願いを共有していきたいと思います。

（日本銀行フランクフルト事務所）

※本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



上／EUの政治の中心、欧州議会本部。EU各国とウクライナの国旗がはためいています  
(フランス・ストラスブール)

左／ドイツとフランスの国境（ライン川にかかる橋）





にちぎん